

學 報

Kobe College Bulletin

2025年 神戸女学院
創立150周年

150th
Bridging Generations

ISSN0389-164X

NO. 198

2023. 7. 13
神戸女学院
学報委員会

新学部設置に至る経緯

学長 中野 敬一

本学の教育の伝統には「三つの柱」があります。「キリスト教主義」、「国際理解の精神」、「リベラルアーツ教育」です。この三つの柱を基に充実した教育を展開するために、長期目標・計画を策定したものを「これからの道標（2021～2030年度）」と呼び、公表しています。そこには本学の「目指す姿」（大学像と学生像）が示されています。

まず、目指す【大学像】として「豊かな人間性と国際感覚を育む、日本を代表するキリスト教主義リベラルアーツ女性大学」と掲げています。つぎに、目指す【学生像】として「21世紀にふさわしい教養と知性、高い語学力、そして『愛神愛隣』の精神を身につけ、どのような立場に置かれても十分に能力を発揮し、状況に立ち向かうことができる学生」と掲げています。いずれも長きにわたり本学の教育理念として継承されてきたことを端的に表したものです。

「目指す姿」を実現するには、教育内容の継続的な見直しや検討を行うことや、時代に即した改革を進めることが必要となります。そこで本学は次年度（2024年度）に改組を行って新たに2学部を開設することを決定しました。英文学科が文学部から独立して、「国際学部（「英語学科」と「グローバル・スタディーズ学科」）」となります。また、心理・行動科学科が人間科学部から独立して、「心理学部（「心理学科」）」になります。

創立以来、英語教育に力を入れて国際理解の精神を育む教育を行ってきた英文学科は「国際学部」としてその教育をより充実させて多様性と国際化の進む社会において活躍できる学生を送り出します。また、体験や実践を重視して人間と社会のかかわりに関する知識や技術を育む教育を行ってきた心理・行



動科学科が「心理学部」となり、複雑化する社会において活躍できる学生を送り出します。いずれの学部においても自らの学びを隣人の幸せのために活かすという視点があり、両学部の設置計画は「三つの柱」や「これからの道標」の内容に合致するものです。改組による教育内容の充実により、教養や知性、語学力等に加えて愛神愛隣の精神を身につけた学生が「目指す姿」に近づくことを期待しています。

ところで、急激な少子化が進んでいる今日、文字通り「生き残り」をかけた学部改組や改編が全国各地の大学において行われています。志願者を獲得するために新たな学部や学科等を設置する取り組みがなされており、関連する話題が教育業界を席卷しています。学部や学科名も以前には無かった名称が付けられており、その数は全国で約800とも言われています。独自性を出すために他大学にはない名称を

探すだけでも大変です。

本学の場合も志願者減が続いたことで学内外から改組の必要性が説かれ、時流に応じた学部新設等に関する提言が数多く寄せられてきました。それらの提言が社会からの期待や要請に基づくものであることは理解しております。しかし、大学改革は大学の存在意義を大学自らが確認しながら主体的に行うべきことです。また、建学の精神や理念に基づく教育改革を進めることが何よりも重要なことであることを確認して、その方針を貫くことにしました。

もちろん、大学改革が社会の要請に対して逆行すべきであると主張しているわけではありません。本学が行う教育と社会の要請が一致するのは望ましいことでもあります。例えば、予測不可能な時代を生きる人材の育成には「文理融合・文理横断型」教育の重要性が経済界でも説かれ、その方法論の一つにリベラルアーツ教育が挙げられています。ビジネスの現場等で直ちに使える実用的教育を指す「実学」志向が強いのは事実ですが、急速に変化する社会でその知識や技能がいつまで活かされるのかは不明です。ましてやAI技術が躍進する時代において想像を遙かに超える世界が間近に迫っているのですから、今は実用的であっても、数年後の社会において必要とされる保証はありません。リベラルアーツ教育は特定の専門領域にとどまらず幅広く教科を学ぶことで視野を広げ、物事を多面的、批判的に見る力を養うための教育です。予測不可能な未来を生き抜くための力が得られる学びと言っても良いでしょう。ちなみに、資格を伴う実学教育とリベラルアーツ教育は単純に二項対立とはなりません。リベラルアーツ教育を受けながら専門の資格を取得した本学の学生は、ただ同じ資格を持つ人とは異なる視野が得られているはずです。本学で行われているリベラルアーツ教育の特長であると言えるでしょう。

さて、既に述べてきたように、この度の改組目的は本学の教育理念に基づき、既存の教育内容をより充実させるということです。それに加えて重要な目的があります。それは教育内容の「可視化」です。幸いなことに本学は教育力について高校教員からも高い評価を得てきました。客観的根拠として出版社「大学通信」による高校の進路指導教諭へのアンケートにおいて、本学は「入学後、生徒を伸ばしてくれる大学」(全国女子大1位)「面倒見が良い大学」(近畿地区の女子大学1位)と評価されています。これは少人数教育の実施による確かな成長や、キャ

リア支援をはじめとする各部署で行われてきた学生への細やかな対応についての評価であると思います。

ただし高評価をもらう一方で、本学の教育内容が見えづらいという意見が寄せられることも少なくありません。学部や学科名から学びの中身がわかりにくい、と言われるのです。たとえば、英文学科といっても、いわゆる「英文学」のみを扱っているわけではありませんが、そのイメージが先行してしまうと言われます。また、高校生が志望校を探す際にネット検索しても、自分の関心がある分野が本学の学部や学科にヒットしないという指摘もあります。「国際」や「グローバル」あるいは「心理学」という用語が学部名や学科名にあると、そのような状況が改善されることとなります。長きにわたって維持されてきた学部名の変更については抵抗感や違和感がある方も多々おられると思いますが、ご理解いただけると有難く存じます。

以上のように、本学が改組をする際の方針は、従来と全く異なる学部を新設するというのではなく、現在本学が実施している教育内容を可視化して、その中身を明示するために行うというものです。改組を行うということ自体で注目されることもあるので、それによって本学の教育内容を見てもらえる機会が増えることにもなります。

なお、同じく2024年度から音楽学部音楽学科も「音楽表現専攻」と「音楽キャリアデザイン専攻」の2専攻を新たに開設します。豊かな人間性が生まれ、「音楽」を通じて社会や人と関わることを望む学生を求めます。

その他の改組やカリキュラム改編等は今後も続けていく予定です。総合文化学科や環境・バイオサイエンス学科も本学の教育理念を基本としながら、それぞれが自らの教育を充実させ、その可視化にむけた改革を行うことを検討しています。

本学が神から与えられている使命を覚えながらそれに相応しい改革を行っていくとき、祝福が豊かに与えられると信じています。約1年半後に創立150周年という大きな節目を迎えようとするこの時、幾多の困難を超えて今日まで続けられてきた本学の教育を維持・発展できるよう、今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。

国際学部と心理学部の設置に係る届出が6月22日付で文部科学省に受理されました。

KCCだより

[コーベ・カレッジ・コーポレーション (Kobe College Corporation) は、1920年に神戸女学院のキャンパス移転の資金援助のため設立された、アメリカ合衆国イリノイ州を本拠地とする非営利団体 (NPO) です。以来、日米両国の学生生徒ならびに教員のためにさまざまな文化交流の機会を創出するなど、有形無形の力強い支援を行い、神戸女学院はその活動によって大きな恩恵を受けてきました。2004年、KCCはその活動範囲を拡大するために、名前の後に“Japan Education Exchange”という副称を付け加えて、通称 KCC-JEE となりました。]

KCC-JEE の活動紹介

KCC-JEE 理事 水野 多美

この度は、KCC-JEE の活動についてご紹介させていただきます。KCC-JEE の活動をよく知っている方、そんなの知らないとおっしゃる方と神戸女学院関係者の方々もいろいろだと思います。

- ①神戸女学院中高部英語教員 候補者の選考；英語を母国語とする若い英語教師を選考し中高部の英語教育、国際化への助力を続けています。
- ②神戸女学院大学客員教員 (Bryant & Alberta Drake Guest Professor) の選考と派遣；元 KCC 会長の Dr. Bryant Drake を記念して客員教授を選考しています。大学 各学部でのニーズに合うように努めています。
- ③アメリカ国内で日本語を学ぶ高校生エッセイコンテスト開催；今年は、新型コロナウイルス感染拡大の為3年間保留となっていた夏の日本でのステイがやっと再開されることとなりました。4人の勝者がこの夏に京都での日本語クラス体験を楽しみにしています。
- ④米国研究者へ日本での研究機会を提供 (Graduate Fellowship)；日本研究を専門とする博士課程の学生に日本での実地研修の機会を提供することで彼らの研究の一助になっています。
- ⑤神戸女学院大学の学生に米国でのインターンシッ

プの機会を提供；日米の文化・慣習の違いを体験しキャリア選考の一助になることを願っています。

- ⑥神戸女学院大学音楽学部・大学院音楽研究科学生へ奨学金の提供 (ハンナ・ギューリック・スエヒロ記念賞) ハンナ・ギューリック・スエヒロ氏は1891～2年頃、神戸女学院で音楽を教えておられました。スエヒロ氏と娘のエミー・スエヒロ氏の遺産の一部が、KCCに移管され、神戸女学院で音楽を専攻する学生の奨学金に充てられ、オーディションにより専攻された音楽学部4年次学生及び音楽研究科修士課程2年次学生に授与されています。

100年を超えて活動を続ける KCC-JEE は、岡田山の地の校舎建築時に寄付を募った残りの資金を元に、少しずつ日米での教育の機会を紡いできました。現在も投資を元に次の100年にも国際理解の一助として続くようにと、理事、コミッティ・メンバーの皆さまとボランティア活動を続けています。

KCC-JEE 内では、オンラインでのコミュニケーションがメインとなっています。これらのプログラム、活動にご興味のある方は、ぜひ programs@kccjee.org まで、ご連絡いただければ幸いです。

これからも神戸女学院と繋がりを緊密に連携して、KCC-JEE の活動が神戸女学院にとってより有意義なこと、日米の教育活動の一つとして役立つように継続していくことを願います。



KCC-JEE 推薦 学院理事・評議員
前列左から2人目 KCC-JEE 会長、後列左端筆者

故 杉浦 香氏 追悼記念礼拝（報告）

2023年2月24日（金）、この日は朝から雨が降っていた。

Kobe College Corporation-Japan Education Exchange (KCC-JEE) 名誉理事で本学高等学部第77回卒業生の杉浦 香氏が1月1日急逝された。シカゴにおいて永年にわたり神戸女学院（KC）の多くの国際プログラムを献身的に支え、神の忠実な僕として歩んだ香氏を追悼し、感謝の意を表すため、追悼記念礼拝が10時30分からソールチャペルで行われた。ソールチャペルにはご遺族をはじめ、香氏とゆかりのある方々約60名が集い、会堂は一杯になった。講壇には香氏の写真と花が飾られた。

前奏に続き、一同で讃美歌第363番を歌った。中野敬一学院チャプレンの聖書拝読（コリントの信徒への手紙Ⅱ第4章7-18節）、祈祷のあと、飯 謙院長が式辞を述べた。

カレンダーにこのような項目が加わるとは夢にも思わなかった。56年前に結婚式をあげた愛する KC キャンパスのこの場所で、追悼を行うことになろうとは。香氏は最後まで隣りに仕えた人だった。そして向かい合う相手との接点を大切にされる方だった。さまざまな接点があり、常に素早く手を差し伸べてくださった。それは non sibi の精神を体現する生き方であったが、香氏にとっては特別な生き方ではなく、日常であった。神の愛を受けた香氏との大切な出会いに感謝し、再会の希望をもって今ここに香氏の天上での平安とご遺族の上への慰めを祈り、感謝をささげたい。

続いて、松澤員子元院長から追悼の言葉があった。香氏は院長となった自分を KCC-JEE と、また同窓生とつないでくれた。毎年、アメリカでの同窓会をセッティングし、ロックフォード大学に必ず連れて行ってくれた。香氏は卒業生として KC と KCC-JEE をつなぐ影の力であり、それは KCC-JEE に優る力であった。遠くに在って KC を思っている人々の中心にいる存在だった。香氏を思い出すことによって励まされている。

斉藤言子名誉教授が「主われを愛す」を独唱、2階からソールチャペルに歌声が降り注いだ。

ご遺族の挨拶が始まる。まず最初に Yuka Sugiura 氏がマイクの前に立った。言葉が出ない。涙声で言葉に詰まりながら英語で思い出を語り始め



追悼礼拝

た。その時、会堂内で讃美歌が聞こえた。ハミングしているような、優しく語り掛けるような。Yuka 氏の背中をそっと押しているように思えた。話が長くようになった時、讃美歌は聞こえなくなっていた。

次の Misa Sugiura 氏は1992年から3年間、中高部でミッションナリー教員として奉仕してくださった方でもある。日本語で母としての香氏について語られた。アメリカですんなりと受け入れられたわけではない母は、なるべく子どもたちがアメリカ人になれるようにと努力した。アメリカ式のクリスマスのことを例に挙げて話された。他人のために生きていた日本人の母のことを理解できるようになった、と。

最後に杉浦 剛氏は香氏の人となりユーモアを交えて日本語で語られた。香氏にとって KC は心のふるさと、魂のベースだった。KC の話題になると語気が変わった。人々の世話をすることが生きが이었다。細やかな心遣い、アドバイス、小さな親切、それをずっと続けてきた。「私の言うことは誰も聞いてくれない。言うことを聞いてくれるのは KC の学生さんだけだ。」と愚痴ったこともあったとか。

頌栄第29番を一同で歌い、中野先生の祝祷をもって礼拝は終了した。終了後、会衆は三々五々にご遺族の元を訪れ、言葉を交わしていた。

講壇に飾られていた花は一つ、慎ましやかな淡いブルーを基調とした落ち着いた色合いの花束。香氏の人となりを表しているようであった。

（史料室 佐伯 裕加恵）

2022年度 愛校バザー会計報告

2022年10月29日(土)に開催された愛校バザーは、同窓生、保護者、教職員、学生、生徒のご協力のもと、晴天にも恵まれ、盛況のうちに終了しました。ここに会計報告をいたします。

【めぐみ会】

(単位：円)

取 入		支 出	
協 賛 券	0	会 議 費	113,218
寄 付 金	4,173,138	旅 費 交 通 費	205,080
寄 贈 品	1,131,203	通 信 運 搬 費	1,198,414
院章商品・めぐみグッズ	996,200	事 務 委 託 費	288,756
喫茶・弁当・飲料	1,540,005	消 耗 品 費	54,539
支 部 売 店	1,588,262	印 刷 製 本 費	552,073
有 志 売 店	181,600	雑 費	34,939
収 入 合 計	9,610,408	仕 入	2,900,335
		共 通 費 負 担 額	446,670
		めぐみ会負担費用	-273,616
		小 計	5,520,408
		収 益 金	4,090,000
		支 出 合 計	9,610,408

収益金使途内訳

(単位：円)

めぐみ教育基金に寄付	2,200,000
自治会活動補助	1,440,000
中高リーダートレーニング補助	250,000
中高部修養会	100,000
大学学生活動補助	100,000
合 計	4,090,000

【学 院】

(単位：円)

取 入		支 出	
入場券		消 耗 品 費	149,302
大 学	886,800	通 信 費	24,192
中 高	358,000	食 料 品 費	2,940
当 日	215,400	委 託 外 注 費	1,135,467
寄贈品		賃 借 料	732,400
大 学	95,480	印 刷 費	160,430
中 高	713,771	保 健 衛 生 費	3,343
売店		雑 費	35,325
大 学	146,058	小 計	2,243,399
中 高	196,476	収 益 金	1,352,214
P T A	983,628	支 出 合 計	3,595,613
収 入 合 計	3,595,613		

収益金使途内訳

(単位：円)

福祉施設への寄付	450,000
PILGRIM PLACE への寄付 (\$500)	64,245
神戸女学院教育振興会に寄付	837,969
合 計	1,352,214

愛校バザー報告

毎年の愛校週間である、創立者タルカット先生のお誕生日（5月22日）の週の土曜日に開催される愛校バザーは、1911年から学院を上げて守られている大切な行事ですが、新型コロナウイルス感染症の蔓延による3年連続中止という異例の事態を経て、昨年度は半年遅れの秋開催により復活いたしました。そして、この春からは感染症の位置づけが「5類感染症」に移行したことを受けて、遂に本来の時期と規模で開催できることとなりました。

早朝から進められた準備が整えられ、学院全体で礼拝が守られた後、飯院長の晴れやかなお声で開会宣言がなされ、学院グッズなどを求める長い行列に、藤棚とテントに設けられたお食事と歓談用スペースも満席で、活気ある愛校バザーの伝統がすっかり元に戻りました。また、リビングヘリテージとしてのヴォーリズ建築に対する関心の高まりを受けてご来場された一般のお客さまには、賑わいの中にあつてなお漂う学院の品格を感じ取っていただけたのではないかと存じます。また、ご家族連れのお客さまも多く、お子さまたちにとりましても憧れの対象として記憶されたならば、なお嬉しいことだと思います。

こうして神戸女学院に連なるみなさまのご協力・ご支援により正統な形での2023年度愛校バザーが開催できましたことを、感謝をもってご報告申し上げます。来年度は2024年5月25日(土)に開催予定でございますので、どうぞ覚えてお出ましく下さい。

(総務部長)



右：KC Medicalの相談コーナー

左：満席の歓談用スペース

(筆者撮影)

創立150周年に向けた取り組みについて

学校法人神戸女学院では、2025年に迎える創立150周年に向けて、記念行事として、現在下記の取り組みを進めております。

■創立150周年記念募金

先般、募金の趣意書を関係する皆様へ発送いたしました。募金の概要等は下記です。

【募金の概要】

受付期間：2023年4月1日～2028年3月31日

目標金額：5億円（5年間）

受付金額：1口（10,000円）から

※定期でのご寄付の方は年間10,000円から

【募金の用途】

キャンパス再整備

- ・正門及び門衛舎の改修
（重要文化財の保存・活用）
- ・葆光館の改修（重要文化財の保存・活用）
- ・理学館西側地域再整備
（新棟建設、西門からの歩車分離）
- ・桜並木の復元

学生生徒支援

- ・教育プログラムの充実
- ・新しい学びへの支援
- ・ユニバーサルマナープログラムの実施

その他関連事業

- ・歩みを伝える150年史の編纂

※詳細は創立150周年募金サイト（URLは下記）をご覧ください。

<https://150th.kobe-c.ac.jp/fund/>

■ユニバーサルマナープログラム

学報196号（昨年12月発行）でもお知らせしたユニバーサルマナープログラムについて、昨年11月に加え、本年2月および4月に学内でユニバーサルマナー検定講座を開催しました。2月と3月で約460名の大学生が3級の検定講座を受講し、11月に受講した大学生と合わせて、現在約600名の大学生が3級を取得しています。大学だけではなく、本年10月には高等学部1年生も検定講座の受講を予定しています。

今後は西宮市と連携し、3級を取得した大学生が地域で活躍できる取り組みを進めていきます。

現在の取り組みに関するご紹介は以上です。2025年の創立150周年の2年前となる今年度からは、上記に加え、学内外に150周年を迎えることを広くPRするための取り組みも開始する予定です。

（神戸女学院150周年事務局）

神戸女学院創立150周年記念展示 「C.B.デフォレスト展」開催について

図書館本館では5月23日より7月13日まで、第5代院長召天50周年「C.B.デフォレスト展—愛と美を求めて—」を開催いたしました。

第5代院長シャーロット・バージス・デフォレスト先生は、女性の高等教育機関の確立を目指し日米双方からの理解と支援を得るために奮闘されました。召天50周年となる本年、先生の人生と教育を、故竹中正夫先生の御著書「C.B.デフォレストの生涯美と愛の探求」を基礎として、図書館の資料および神戸女学院めぐみ会様からお借りした貴重な写真や資料とともに迎っています。キリスト教主義に基づく教育理念や時代に応じた教育改革等、創立以来の神戸女学院の精神を感じていただけるような展示を心掛けました。

初日である5月23日には13時より、特別協力をいただいた神戸女学院めぐみ会の方々、故竹中正夫先生の奥様をお迎えし特別見学会が開催されました。黙祷から始まり、飯院長のお言葉、中野学院チャプレン・学長のお祈り、藏中図書館長のお言葉をいただいたのちに、史料室佐伯職員の見学を受けながら皆で展示をめぐり、13時40分に黙祷をもって終了しました。

学院主催の神戸女学院創立150周年展示は「C.B.デフォレスト展」を第1弾とし、2024年に「岡田山移転90周年（仮）」第2弾、2025年に「神戸女学院創立150周年（仮）」第3弾と、3年にわたって開催されます。将来に続いていく神戸女学院の精神を感じていただける展示ができればと思っております。皆様のお越しをお待ちしております。

（図書館課長）



特別見学会にて

神戸女学院教育振興会寄付金

神戸女学院教育振興会ホームページ
(スマートフォンにも対応しています)

神戸女学院教育振興会



検索



平素より神戸女学院教育振興会募金事業にご厚志ならびにご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

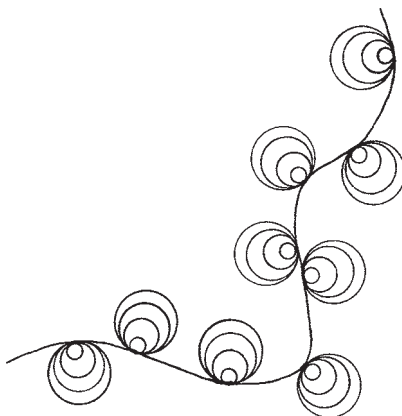
2022年度のご寄付実績を下記の通りご報告申し上げます。ご芳志は特にご指定のない限り「岡田山キャンパス改修費用」「学生生徒の奨学基金」に折半して活用させていただきます。

2022年度ご寄付実績

区 分	件数/冊数	金額(円)
同窓生	798件	19,869,758
在校生		
保護者(大学・中高)	165件	8,882,000
役員(教職員を除く)	13件	1,610,000
教職員・旧教職員	81件	6,888,000
法人・団体	33件	5,050,650
一般有志	7件	94,160
金銭によるご寄付計	1,090件	42,394,568
古本募金によるご寄付	12,166冊	956,312
寄付金額合計		43,350,880

※複数の区分に該当する方の場合は、事務処理上妥当と思われる区分を選択しております。

ご寄付をいただきました皆様、本当にありがとうございました。なお、ご寄付者芳名録は、すでにお手元にお届けしております「創立150周年記念募金に関するご案内」に同封しておりますのでご覧ください。



神戸女学院2022年度決算報告、 2023年度事業計画及び2023年度当初予算

2022年度に実施した事業の内容及び2023年度事業計画は、『2022年度事業報告書』に記載しております。以下の本学院ホームページをご覧ください。
<http://www.kobe-c.ac.jp/foundation/financial/index.html>
また、当該ホームページ上では、決算書も公開しておりますので、併せてご参照ください。

I. 2022年度神戸女学院決算報告

1. 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、①教育活動、②教育活動以外の経常的な活動、③その他の活動に対応する事業活動の収支の内容を示し、すべての事業活動収入及び事業活動支出の均衡の状態を明らかにするために行うものです。2022年度の事業活動収支計算書の概要は以下の通りです。

(1) 教育活動収支差額

教育活動収入は、学校法人の本業である教育活動からの収入です。2022年度の教育活動収入は、46億51百万円で、前年度比2億38百万円の減少となりました。内訳をみますと、学生生徒等納付金36億30百万円は、前年度比2億36百万円の大幅減少です。補助金は、学生数が減少して収容定員に近づいたため経常費補助が増加し54百万円増加しました。寄付金121百万円は、大口の遺贈があったことを主因に47百万円増加しました。また、入学検定料の減少により、手数料収入は51百万円と前年度比5百万円減少となりました。付随事業収入も58百万円と前年度比12百万円減少しました。また、私立大学退職金財団等交付金の減少等により、雑収入は1億63百万円と前年度比85百万円の減少となりました。

教育活動支出は、学校法人の本業である教育活動に関する支出です。2022年度の教育活動支出は、48億67百万円で前年度比3億40百万円の減少となりました。内訳をみると、人件費30億25百万円は前年度比1億91百万円の減少となりました。教育研究経費は14億43百万円で前年度比2億22百万円の減少となりました。これは、前年 IT 投資に伴い計上されていた業務委託費等が剥落したことによるものです。管理経費は3億99百万円と75百万円増加しました。

以上の結果、教育活動収支差額は2億16百万円の赤字となりました。前年度比で1億3百万円の赤字幅縮小となっています。

(2) 経常収支差額

経常収支差額は、教育活動収支差額に主に財務活動の収支である教育活動外収支差額を加算した額です。2022年度の教育活動外収支差額は、金銭信託等の運用により32百万円の黒字となりました。経常収支差額は、1億84百万円の赤字と、前年度比では1億10百万円の赤字幅縮小となりました。

(3) 基本金組入前当年度収支差額

経常収支差額に特別収支差額3億6百万円を加えた基本金組入前当年度収支差額は、1億22百万円の黒字に転換し、前年度比では、3億57百万円の改善となりました。東京寄宿舎クローバーハウスの売却益計上が主因です。

2022年度の基本金組入額合計は、5億23百万円で、前年度に比べて3億56百万円増加しました。これは、「理学館西側地域再整備計画」に関連して第2号引当金組入を行ったためです。基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額合計を差引いた当年度収支差額は、4億2百万円の赤字となり、前年度とほぼ同額となりました。

2. 資金収支計算書

資金収支計算書は、当該会計年度の諸活動に対応するすべての収入及び支出の内容並びに支払資金（現預金）の収入及び支出のてん末を明らかにするものです。事業活動収支計算書と資金収支計算書はその作成目的が異なるため、事業活動収支計算書では資金の出入りを伴わない項目も計上されますが、資金収支計算書では資金の出入りが反映されます。例えば、有価証券の売却を行った場合、事業活動収支計算書では、売却収入と有価証券の簿価（有価証券の取得価額）の差額が資産売却差額（または資産処分差額）として計上されますが、資金収支計算書では、売却収入額が計上されます。2022年度の資金収支計算書の概要は以下の通りです。

(1) 収入の部

以下、2022年度の資金収支の収入の部について説明しますが、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

資産売却収入は前年度0でしたが、2022年度は不動産売却と有価証券売却に伴う収入が15億15百万円計上されています。借入金等収入は2022年度もありませんでした。前受金収入は、2022年度入学者が

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

	科 目	本年度	本年度	前年度	増減	
		予算	決算(A)	決算(B)	(A)-(B)	
教育活動収支	事業活動 収入の部	学生生徒等納付金	3,647	3,630	3,866	△ 236
		手数料	58	51	56	△ 5
		寄付金	136	121	74	47
		経常費等補助金	633	628	575	54
		付随事業収入	55	58	70	△ 12
		雑収入	147	163	247	△ 85
	教育活動収入計	4,675	4,651	4,889	△ 238	
	事業活動 支出の部	人件費	2,993	3,025	3,217	△ 191
		教育研究経費	1,444	1,443	1,666	△ 222
		管理経費	439	399	324	75
徴収不能額等		—	—	1	△ 1	
教育活動支出計	4,877	4,867	5,207	△ 340		
教育活動収支差額	△ 201	△ 216	△ 318	103		
教育活動外収支	事業活動 収入の部	受取利息・配当金	30	32	25	7
	事業活動 支出の部	教育活動外収入計	30	32	25	7
	借入金等利息	1	1	1	△ 0	
	教育活動外支出計	1	1	1	△ 0	
	教育活動外収支差額	29	32	24	7	
経常収支差額	△ 173	△ 184	△ 294	110		
特別収支	事業活動 収入の部	資産売却差額	380	252	—	252
	事業活動 支出の部	その他の特別収入	4	59	99	△ 39
	特別収入計	384	312	99	213	
	事業活動 支出の部	資産処分差額	10	6	38	△ 31
	その他の特別支出	—	—	2	△ 2	
特別支出計	10	6	40	△ 33		
特別収支差額	374	306	59	247		
基本金組入前当年度収支差額	201	122	△ 235	357		
基本金組入額合計	△ 104	△ 523	△ 168	△ 356		
当年度収支差額	97	△ 402	△ 402	1		
前年度繰越収支差額	△ 1,989	△ 1,989	△ 1,587	△ 402		
基本金取崩額	—	241	—	241		
翌年度繰越収支差額	△ 1,892	△ 2,150	△ 1,989	△ 161		
(参考)						
事業活動収入計	5,088	4,996	5,013	△ 17		
事業活動支出計	4,887	4,874	5,248	△ 374		

資金収支計算書

(単位：百万円)

収入の部				
科 目	本年度	本年度	前年度	増減
	予算	決算(A)	決算(B)	(A)-(B)
学生生徒等納付金収入	3,647	3,630	3,866	△ 236
手数料収入	58	51	56	△ 5
寄付金収入	125	135	75	60
補助金収入	635	650	671	△ 21
資産売却収入	865	1,515	0	1,515
付随事業・収益事業収入	55	58	70	△ 12
受取利息・配当金収入	30	32	25	7
雑収入	147	158	244	△ 85
借入金等収入	0	0	0	△ 0
前受金収入	551	521	544	△ 23
その他の収入	2,720	2,721	227	2,494
資金収入調整勘定	△ 640	△ 674	△ 860	185
前年度繰越支払資金	3,261	3,261	3,663	△ 403
収入の部合計	11,453	12,059	8,583	3,476
支出の部				
科 目	本年度	本年度	前年度	増減
	予算	決算(A)	決算(B)	(A)-(B)
人件費支出	2,990	3,021	3,250	△ 229
教育研究経費支出	1,155	1,153	1,377	△ 224
管理経費支出	413	374	299	74
借入金等利息支出	1	1	1	△ 0
借入金等返済支出	13	13	13	0
施設関係支出	57	55	135	△ 80
設備関係支出	47	52	174	△ 122
資産運用支出	2,400	3,922	59	3,862
その他の支出	167	192	179	13
資金支出調整勘定	△ 173	△ 181	△ 165	△ 16
翌年度繰越支払資金	4,382	3,459	3,261	198
支出の部合計	11,453	12,059	8,583	3,476
(参考)				
収入の部合計-前年度繰越支払資金	8,192	8,798	4,920	3,879
支出の部合計-翌年度繰越支払資金	7,070	8,600	5,322	3,278

2021年度よりさらに減少したため5億21百万円となり、前年度比23百万円減少しました。また、その他の収入は前年度少額であった退職給与引当特定資産の振替に伴う特定資産取崩収入が再び増加したこと、前年度なかった減価償却引当資産の取崩を行ったことを主因に、27億21百万円となり、前年度比24億94百万円の増加となりました。

(2) 支出の部

次に、2022年度の支出の部について説明します。収入の部同様に、事業活動収支計算書と重複する部分は、前述の事業活動収支計算書をご覧ください。

借入金返済支出は、2022年度も約定返済により、前年度と同額の13百万円となりました。施設関係支出は、前年度のIT投資に伴う支出が剥落したこと

を主因に55百万円と前年度比で80百万円減少しました。設備関係支出も同様の事情により52百万円と前年度比では1億22百万円の減少となっています。資産運用支出は、前年度なかった有価証券購入支出、第2号基本金引当特定資産繰入支出、退職給与引当特定資産繰入支出、減価償却引当特定資産繰入支出があったため、39億22百万円と前年度比38億62百万円増加しました。

3. 貸借対照表

貸借対照表は、会計年度末の財政状態(運用形態と調達源泉)を明らかにするものです。

2022年度の貸借対照表の概要は次の通りです。

(1) 資産の部

2022年度末の固定資産は、149億17百万円と前年度比52百万円の増加となりました。前年度比増加の要因は、主に、第2号基本金組入による特定資産の増加です。

2022年度末の流動資産は36億19百万円となり、前年度比では、現金預金の増加を中心に、38百万円の増加となりました。

2022年度末の資産の部合計は、185億36百万円と前年度比89百万円の増加となりました。

(2) 負債の部

2022年度末の固定負債は、15億18百万円と前年度比9百万円の減少となりました。これは、私立学校振興・共済事業団からの長期借入金が約定返済により13百万円減少したためです。

2022年度末の流動負債は、8億23百万円となり、前年度比24百万円の減少となりました。これは、新入生の減少により、前受金が減少したことによるものです。

2022年度末の負債の部合計は、23億41百万円となり、前年度比32百万円の減少となりました。

(3) 純資産の部

2022年度末の基本金は、183億45百万円となり、前年度比2億83百万円の増加となりました。前年度比増加の主因は、第1号基本金*が2億41百万円減少した一方で、第2号基本金**組入を開始して初年度4億94百万円を組入れたこと、第3号基本金***が29百万円増加したことによるものです。

2022年度末の繰越収支差額は△21億50百万円となり、前年度比で、事業活動収支における当年度収支差額(△4億2百万円)と基本金取崩額(2億41百万)の合計相当額(△1億61百万)相当分、マイナス幅が拡大しております。

* 第1号基本金は、学校法人が設立当初に取得した教育の用に供される固定資産及び教育の充実向上のために取得した固定資産の価額となっています。

** 第2号基本金は、学校法人が新たな学校の設置又は既設の学校の規模の拡大若しくは教育の充実向上のために将来取得する固定資産の取得に充てる金銭その他の資産の額となっています。

*** 第3号基本金は、基金として継続的に保持し、かつ、運用する金銭その他の資産の額となっています。

貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定資産	14,917	14,865	52
有形固定資産	7,923	8,378	△ 455
土地建物	1,439	1,693	△ 254
構築物	3,535	3,687	△ 152
教育研究用機器備品	380	405	△ 25
管理用機器備品	437	474	△ 37
図書	31	33	△ 2
車両	2,097	2,087	11
建設仮勘定	1	1	0
特定資産	6,889	6,361	528
第2号基本金引当特定資産	494	0	494
第3号基本金引当特定資産	1,692	1,662	29
退職給与引当特定資産	1,400	1,396	5
減価償却引当特定資産	3,137	3,137	0
岡田山建築保存引当特定資産	167	167	0
その他の固定資産	105	126	△ 21
電話加入権	4	4	0
ソフトウェア	10	14	△ 4
有価証券	0	0	0
差入保証金	4	4	0
貸出資金	21	21	0
貸与奨学金	66	82	△ 17
その他の	0	0	0
流動資産	3,619	3,581	38
現金預金	3,439	3,241	198
修学旅行費預り資産	19	20	△ 0
未収入金	130	301	△ 170
前払金	30	20	10
資産の部合計	18,536	18,447	89

負債の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
固定負債	1,518	1,527	△ 9
長期借入金	118	131	△ 13
退職給与引当金	1,400	1,396	5
流動負債	823	847	△ 24
短期借入金	13	13	0
未払金	170	156	13
前受り金	521	544	△ 23
預り金	100	113	△ 13
修学旅行費預り金	19	20	△ 0
負債の部合計	2,341	2,374	△ 32

純資産の部			
科 目	本年度末 (A)	前年度末 (B)	増減 (A)-(B)
基本金	18,345	18,062	283
第1号基本金	15,805	16,046	△ 241
第2号基本金	494	0	494
第3号基本金	1,692	1,662	29
第4号基本金	354	354	0
繰越収支差額	△2,150	△1,989	△ 161
翌年度繰越収支差額	△2,150	△1,989	△ 161
純資産の部合計	16,195	16,073	122

負債及び純資産の部合計	18,536	18,447	89
-------------	--------	--------	----

II. 2023年度事業計画（2023.3.22 理事会承認）

1. 新生神戸女学院の創出

2022年度大学入学者数は、454名（編入学者1名を含む）と2021年度の479名をさらに下回ることとなりました。2023年度についても回復の兆しは見られず、450名レベルの維持すら危ぶまれる状況です。原因の一つとしてあげられるのは、本学院が重視してきた大学教育への姿勢に対する社会の要請の変化がありながらも、その動きを十分に見極めた対応に遅れがあったことです。

また、女性教育機関への意識や大学生活に対する受験生の思いも多様化していますが、それらに向けて本学院が発信するメッセージも丁寧であったとは言えません。改めて教育内容のいっそうの充実をはかり、さらにキリスト教主義と国際理解の精神に込められた一人ひとりを大切に教育の基（もと）、それを支える教育理念としてリベラルアーツ、その精神を具現し芸術性を備えたヴォーリズ建築など、本学院で学ぶ付加価値の高さを訴えるよう努めてまいります。

そこで、神戸女学院では2024年度、新たに文学部英文学科と人間科学部心理・行動科学科を独立させ、それぞれ「国際学部」と「心理学部」を開設することとしました。また音楽学部音楽学科の再編も完成を目指して準備を進めているところです。

2023年度は、この17年ぶりの学部改編等を梃子に神戸女学院の魅力を広げ入学人数減少に歯止めをかけるべく、新生神戸女学院の魅力と併せて建学以来培ってきた教育の底力を効果的にアピールするため全力を尽くしてまいります。

一方、環境・バイオサイエンス学科の魅力をどのようにアップするかについての議論は緒に着いたばかりであり、文学部総合文化学科に関しては改革の方向性を検討中であるため、いずれについても2023年度内には最良の結論に至れるよう、議論を進めてまいります。

なお、このような議論を進めるにあたっては、大学では改革委員会を組織して鋭意構想を深めていますが、この意志決定プロセスは尊重しつつ、さらにふさわしい教育プログラム策定のため、教職員が広い枠組みで自由闊達に意見を出し合う仕組みが望ましいと考えます。本年度はその構築を促し、2022年度に大学の各種委員会の構成員としてより多くの職員が加わることから始まった真の教職協働を目指した制度変更と意識改革を推進してまいります。

経営面におきましては、山積する課題を迅速に解決していくため、法人が本来的に備えるべき学院全体の経営を司る統括機能が十全に発揮されるよう組織運用面に工夫を加え、2023年度当初より新しい運用を開始します。また、大学事務組織についても、その機能が十分に発揮されるよう、事務体制と人員配置の合理化を進めてまいります。

1-1. 大学改革

2023年度入試においても入学者数の回復が見られず、本学にとっては厳しい状況が続いています。この状況からの脱却をはかるべく、2022年度に着手した大学改革を2023年度は目に見える形で動かし、「新しく」「動きのある」神戸女学院大学を広く認知させることが求められます。そのために具体的には以下の施策を実行します。

- ・設置構想中の国際学部英語学科とグローバル・スタディーズ学科及び心理学部心理学科、また新たな専攻を設置する音楽学部音楽学科については、早期からステークホルダーへの確かな周知を行い認知度の向上をはかります。
- ・既存の文学部総合文化学科及び人間科学部環境・バイオサイエンス学科については、独自性を明確にするとともに、より社会のニーズに合わせた発展に向けて検討を継続していきます。
- ・大幅な改革を予定している入試制度については、これを着実に実行します。また入試広報については効果検証を確実にを行い、リソース投下の選択と集中をはかります。
- ・前年度に引き続き、外部との接点をさらに拡充するために、新たに地域連携室（仮）を設けて窓口を一本化します。これにより、これまで個々の担当部署で培ってきたノウハウを集約します。
- ・前年度にも挙げられていたスピーディーな組織への変革を実現するため、事務組織の見直しを行います。
- ・教職協働については2022年度に行った委員会における構成員の見直しを踏まえ、各部門の施策において職員が主体的に関わり、国や社会の要請に迅速に対応できる体制作りを目指します。

1-2. 経営改革

（1）運営体制・組織の見直し

- ①各種改革に迅速かつ的確に対応するため、総務部・経理部の一体化により学院全体の本部機能を強化します。前年度は事務組織のトップに事務局長を置くことを検討しましたが、新体制下で再検討した結果、既存の人員と組織体制を生かして本部機能を強化する方策を検討すべきとの結論に達

しました。

そこで2023年度からは実質的に学院全体の本部機能を担うため、a. 総務部と経理部の職員に主担当以外に幅広く副担当を持たせて一人ひとりが多様な業務を担えるようにすることにより両部を一体的に運用、全体として「法人統括部」と位置づける、b. 総務部長を法人統括部の代表である法人統括部長扱いとして学院運営の責任を担わせる、c. 高度な専門性が問われる経営企画・財務・運用を統括する経理部長は、法人統括部長を補佐し共に学院運営の責任を担うこととします。この新体制により山積する諸課題の解決に取り組むこととしました。

また、法人統括部には、学院の中長期計画（キャンパスグラウンドデザインを含む）及び広報・ブランディング戦略の策定、大学及び中高部の改革等について、教職員と必要に応じて協議し、学院常務委員会と連携しつつ意見を述べ、提案を行う等の役割を担う経営企画課を新たに設置します。

②大学事務組織・職員配置を合理化し、その機能をより発揮できるようにします。

・2022年度は、大学事務長補佐を2名配置して大学事務体制の強化を実現したほか、大学の企画部門を担う総合職職員の採用活動も行いました。また必要に応じて兼務発令を行い事務運営の円滑化を図りました。もっとも、組織自体や部署間の役割分担の見直しは、2024年度の学部新設準備のため検討自体が先送りとなりました。2023年度は、学部新設準備の進捗に歩調を合わせながら可能な範囲で検討に着手してまいります。

・2022年度の事業計画では入試広報を担う入学センターに加えて大学広報を担う広報課を設置し、相互の協力により効果的な広報を行うこととしておりました。広報課の新設には至りませんでした。入試広報とは別に、大学事務長の下で学部新設に関する広報の企画が行われた他、広報部門を担える専門的人材も2名採用する等一定の成果が現れました。

2023年度は、新たに設置される経営企画課の担うブランディング部門と入試広報、大学広報の役割分担と協力関係を明確化し、全体として学院の対外的アピールを強力に推進してまいります。

(2) 人事・給与体系等の見直し

・教職員が高いモチベーションをもって学院再生に邁進できるよう、年功序列によらず積極的に課題解決に取り組む教職員が報われ、職責と勤務状況の実態に即した納得感の得やすい人事・給与体系について組合とも協議しつつ検討を進めます。

(3) 就業規則の見直し

・理事会から課題が指摘されていた就業規則については、改正原案の成立に向けて、教職員の理解を得られるよう説明を尽くした上で、各組合との協議を進めてまいります。

(4) 職員の人材充実と育成

・高い専門知識と意欲を備えた若手総合職の採用を行うことにより、職員の補強とレベル向上を図ります。また、学院の将来を担える見識ある人材を育成するための方策を引き続き検討し、実行に移してまいります。

(5) 施設整備

・凍結されていた「神戸女学院キャンパス再整備マスタープラン」については、2024年度の心理学部の開設を踏まえ、老朽化と狭隘化が著しい理学館別館の建替を中心とする「理学館西側地域再整備事業」の基本計画に着手し、創立150周年に当たる2025年秋の完成を目指します。2023年度は、基本設計及び実施設計を進めるべく関係部署、設計事務所の総力を結集してまいります。

・また並行して、デフォレスト館、文学部I号館及びII号館のリノベーション等、再整備マスタープランの他の計画については、大学における教育プログラムの議論進展を見極めつつ、可能な範囲で検討を進めてまいります。

(6) 資産運用

・前年度は、資金運用管理規程等を見直した上で、将来にわたる資金運用基本方針を策定しました。2023年度は、これを着実に実行してまいります。

2. 部署別計画

2-1. 大学

(1) 学生募集・広報の強化

・適正な学生数を維持するため、2024年度開設の「国際学部」「心理学部」の告知を確実に実施します。特に高校生とその関係者に情報が到達するための施策を講じ、その効果を検証します。同時に、新たな入試制度を実装することにより、受験生に寄り添った入試実施の体制を構築します。

・大学ホームページのリニューアルにより、高校生他ステークホルダーに対してわかりやすいサイトの構築を実現します。そのために人員の増強を行います。

(2) アフターコロナをふまえた教育体制の整備

・学生自身のパソコンの利用（BYOD）など、学生の多様な学修形態に対応したパソコン教室等のIT環境再整備について検討します。

・「AI戦略2019に沿った数理・データサイエンス・AI教育」を推進し、文部科学省のリテラシーレベルの認定を目指します。

(3) 国際連携・地域連携の強化

- ・国際連携については、国際学部新設にも伴って、交換留学生のみならず正規外国人留学生を受け入れられる学内体制を構築します。
- ・地域連携については、これまでプログラム別に実施してきた地域連携活動の運営体制を見直し、地域連携室（仮）の設置に向けて組織を再構成します。

(4) 学修成果の可視化

- ・学修成果の可視化に向けた情報処理基盤を整備します。2026年度の教学システムリプレースに合わせ、学修ポートフォリオ等のシステム導入の検討を進め、学生目線での学習成果の把握と測定の方法について検討を行います。

(5) 組織体制の強化

- ・既存の大学事務組織の見直しを行い、よりスピーディーで弾力的な大学運営が実施できる体制を構築します。その先駆けとして学長室と大学事務長室において一部の業務を一体化します。

2-2. 中高部

(1) 1クラス40人以下の教育環境の整備

- ・2023年度より中学部35人×4クラス体制を決定したことを受けて、教員の配置計画と、校舎改築による教室整備計画を実施します。

(2) 特別支援への対応強化

- ・不安を抱える生徒への対応として、今年は生徒支援室を作り体制を強化します。

(3) IT環境の整備

- ・IT環境整備の具体案を実施していくとともに、GIGAスクール構想に基づいた、1人1台環境を導入し、新しい授業を展開していきます。

(4) クラブコーチ制への移行検討

- ・クラブコーチ制導入、利用のための条件について整備します。

(5) 修学環境の整備

- ・昨年度に引続き、葆光館空調システムの改修を行います。

2-3. 法人

(1) 150周年記念事業

- ・当面の教学改革の内容や、それに伴うキャンパス再整備マスタープラン再始動の方向性が明らかになったことを受け、事務局としては2023年度が新たなフェーズであることを認識し、150周年記念事業の具体的内容の検討や、記念募金の実施に向けた準備作業を加速してまいります。一例として、本学院の建学の理念等の理解をはかるための展示会等が考えられます。

(2) 法人運営関係

- ・法人統括部の設置により、大学の教学改革や組織改変など重要な案件に関し、学院全体の視点に立った助言や提言を行ってまいります。
- ・コロナ後という新たな環境において必要とされる、感染症への耐性を備えた教学活動実現に向けて、検討を進めてまいります。また、全国的に見られる治安状況の悪化傾向を踏まえ、キャンパスの安全確保のための方策を考えます。

(3) 財務関係

- ・2021年度、2022年度と連続して入学者数が大幅に減少しました。2023年度も回復は見通し難く、2022年度並みの入学者数を前提とした2023年度予算も、3年連続で事業活動収支が赤字となっています。また、2021年度、2022年度は、最低限の目標としてきた「キャッシュフローマイナス回避、運用資産残高の維持」は達成できましたが、2023年度当初予算においては、この目標も諦めざるを得ない状況です。

2023年度は、少なくとも当初予算で想定したキャッシュフロー不足を少しでも小さくするため、まず経費関係では、従来の仕組みや考え方、慣行にとらわれず、当該支出が合理的な根拠に基づくものであるか、無駄がないよう十分に管理された支出であるか等の観点から削減に取組みます。また、こうした作業をスムーズに進めるために外部の知見も導入します。

人件費については、抜本的な収支改善には相応の削減は避けることができないとの基本認識のもと、年功序列によらず積極的に課題解決に取組む教職員が報われ、職責と勤務状況の実態に即した納得感の得やすい人事・給与体系を構築することと併せて組合との協議を進めてまいります。

- ・2023年度も基本的には低金利環境が継続するものと思われます。こうした状況に対応するため、2022年度には資金運用管理規程等の一部を見直しして運用の自由度をやや増しました。これを踏まえて新しく「資金運用基本方針」を定めましたので、その範囲内で金融資産運用による収入増を図ります。
- ・「キャンパス再整備マスタープラン」については、2022年度に凍結が解除されました。今後必要とされる資金につきましては、東京寄宿舎クローバーハウスの売却により得られた資金を中心として2022年度から第2号基本金に繰入れ、計画的に確保してまいります。
- ・従前より検討中の旅費規程の見直し作業については、既に作成している改訂案を組合に示して理解が得られ次第、進めてまいります。

(4) 施設関連

①学院施設の充実

- ・創立150周年に向けたキャンパス再整備計画として、西門バリアフリー整備及び心理学実験室の機能を含

む新棟の基本計画から実施設計までを行います。

- ・学内各所のパッケージ式エアコンのうち、設置後20年が経過した機器について予防保全と性能向上による省エネルギーの観点から更新を進めます。
- ・オルチン館の空調配管の老朽化により空調効率が低下しているため、2023年度から3か年計画で1フロアずつ配管の更新を行います。
- ・文学館・図書館本館用ボイラーを経年劣化のため更新します。その際、ボイラーの有資格者がいなくても運転可能なボイラーを採用し、休日や時間外でも部屋を使用できるようにします。

②重要文化財保存活用関係

- ・美装化により順次進めている室内の塗装めくれ修理として、講堂前女子便所および総務館中庭側エントランス1階壁の補修を行います。
- ・理学館屋根漏水修理として2021年度に瓦及び下地の状況を調査した結果を踏まえ、豪雨時に漏水が生じないように防水シートを敷設、傷んだ古瓦に補修を施した上、葺き直します。2022年度に南側の修理は終了しており、2023年度に残りの北側を実施することで理学館全体の修理を終了します。
- ・2022年度から四か年計画の文化庁補助事業により正門及び門衛舎の保存修理事業を実施、2023年度は解体格納工事を行う予定です。
- ・中学部4クラス化に伴い葆光館3階を教室に改修します。
- ・教室となる葆光館3階西側をタルカット館と渡り廊下でつなぐことによりバリアフリー化を実現します。

Ⅲ. 2023年度予算書

2023年度事業活動収支予算書の概要は以下の通りです。

事業活動収支予算書 (単位：百万円)

		科 目	金 額
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	3,387
		手数料	58
		寄付金	75
		経常費等補助金	623
		付随事業収入	64
	雑収入	111	
		教育活動収入計	4,316
	事業活動支出の部	人件費	3,029
		教育研究経費	1,488
		管理経費	438
徴収不能額等		0	
		教育活動支出計	4,954
	教育活動収支差額	△ 638	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	35
			教育活動外収入計
	事業活動支出の部	借入金等利息	1
			教育活動外支出計
		教育活動外収支差額	34
	経常収支差額	△ 604	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入	7
			特別収入計
	事業活動支出の部	資産処分差額	10
		その他の特別支出	0
	特別支出計	10	
	特別収支差額	△ 3	
		基本金組入前当年度収支差額	△ 607
		基本金組入額合計	△ 133
		当年度収支差額	△ 740
		前年度繰越収支差額	△1,892
		基本金取崩額	0
		翌年度繰越収支差額	△2,633
		(参考)	
		事業活動収入計	4,358
		事業活動支出計	4,965

史料室の窓(60)

Pilgrim Place Days

—earthly paradise of God—

神戸女学院史料室 佐伯 裕加恵

いろいろな世界に「聖地」と呼ばれる場所があります。神戸女学院の場合、さしあたり神戸と仙台ということになるでしょうか。神戸には創立者 Miss Eliza Talcott のお墓があります。ここでは毎年墓前礼拝が守られています。仙台には第5代院長 Miss Charlotte Burgis DeForest のお墓があります。ここは同窓生の手によってお墓が守られています。そしてもう一つ忘れてはならないのが、アメリカにあった聖地の存在です。そこは Pilgrim Place という名のカリフォルニア州クレアモントにある引退した宣教師たちが住んでいた町でした。神戸女学院で教師として奉仕してくださった先生方も晩年をここで過ごしました。

神戸女学院にゆかりのある先生方が居られた頃、卒業生も機会ある毎にここを訪れていました。ある人はピルグリム・プレイスをこう表現します。一俗世界とは全く違う平和郷、清らかな空気に満ち、花の香りに包まれている。高いパームツリーが立ち並び、美しい緑の芝生に色とりどりの花が咲いている。この中を縦横に美しくカーヴした舗装道路に面して芝生と花園に囲まれて家が建っている夢のような場所である、と(1963年12月発行『めぐみ』第50号 p. 19)。

引退宣教師の先生方はそれぞれ自分の家に住んでいて、電気三輪自動車を自分で運転してクレアモント中、どこへでも出かけていきます。一人で生活することが困難になると、レスト・ホームに移ります。日本でいうと医療ケア付き老人ホームといったところでしょうか。レスト・ホームになっていた建物の中庭は Miss Susan Annette Searle (神戸女学院第4代院長) を記念するもので、壁に先生の銘が彫ってあったそうです。先生方は小さな家でつつまじやかな生活を送り、人々の奉仕に努めて日々を過ごし、美しい環境の中で平和な余生を楽しんでいました。神戸女学院の関係者が訪ねていくと、大変喜んで家に招いておもてなしくださしました。至れり尽くせりのもてなしで、自ラ車を運転してあちこち案内してくれたり、見学したいと思っている場所の準備をしておいてくれたりと、心を砕いてくれました。

デフォレスト先生も1951年から1973年までここで生活しました。先生のお宅には日本の物がたくさん並べてありました。「アメリカに帰って以来、私が



Pilgrim Place にて

自ら課している仕事の一つに、アメリカやハワイに今住んで居られる日本人の先生方や同窓生の皆様と出来る限り連絡をとると云うことがあります。」(1955年12月発行『めぐみ』第35号 p. 15) 先生の日課は、クレアモント教会の婦人会のために奉仕すること、毎週木曜日に同窓会及び全世界に散在してあらゆる分野で働いている全同窓生のために特に祈りを捧げること。先生は訪ねてきた同窓生にユーモアたっぷりに話をします。「学院と同窓会が今だによくして下さり、ニュースも次々と知らせて下さるので、私の方が岡田山のことには詳しい。」と笑いながら。

「此處、ピルグリム・プレイスには九十才以上の人は十二人位居ますが、九十四才という人はそう多く居りません。〔略〕女学院から送られて来たプレゼント、神戸市を染め抜いた手拭いも楽しいものでした。岡田山に移るまで私は二十八年神戸に住み、それは私の生涯で最長の期間でした。私は近代化した神戸の街を記憶を辿って一人で散歩して楽しみました。」(1973年11月発行『めぐみ』第62号 pp. 39-40) この時先生はレスト・ホームに入っておられました。1973年6月18日、訪ねてきた同窓生に「あなたは私の三分の一の若さなのだから、私の年になるまで待ちなさい」と冗談を言い、仲間の引越しや逝ってしまった人のあと片づけをしたことを「そういう順番になったから」とさりげなく言い、別れ際に「みこころならば、秋にもここに居るが、明日の約束もしない方がいい年になってるからね」とおっしゃった先生。先生が亡くなられたのは7月2日のことでした。

<事務室探訪>

情報処理センターのご紹介

大学情報処理センターはジュリア・ダッドレー記念館の2階（と言っても入口のある階なので、実感としては1階）の奥の方、203室にあります。情報処理センターと聞いて、みなさんはどのような業務をイメージされるでしょうか？いくつかある事務分掌の中でイメージしやすいのはインターネットではないでしょうか。そう、学内ネットワークの運用、管理がその一つです。

パソコンやスマートフォンの普及、そしてコロナ禍によって急速にデジタル化が進み、インターネットが使えないといった通信障害等が起きると私たちの生活に大きな支障をきたすようになりました。大学の構内においても同じです。ネットワークが正常に稼働しないと授業や業務に大きな混乱が生じます。学生や教職員のみなさんが学内LANやメール等の学内システムを滞りなく、いつでも当たり前で使用できるように日々メンテナンス、サポートすることが当センターの重要な役割です。

その他にはIT授業のサポートや情報関連資格講座の企画も担当しています。2022年度からスタートした「データサイエンスプログラム」の事務も担っており、より多くの学生にこれからの社会で必要とされているデータサイエンスの知識、技能を身につけてもらうべくサポートしていきたいと思っています。

（情報処理センター）



JD館2階 CS教室

コロナ禍の体育研究室

こんにちは、体育研究室です。ここではコロナ禍での授業対応を通して体育研究室をご紹介します。

2020年度前期、1年生の必修科目と2年生以上選択の講義科目は全て遠隔授業に、選択の実技科目はやむなく開講中止。対応に戸惑いながらも後期授業に向け、学生へ教材の郵送、授業担当者への連絡、手指や用具の消毒用品の調達などを行いました。体育館へのWi-Fi設置は大きな進展でした。Zoom配信が可能となり、後期は実技科目も開講。登校学生は第一体育館に机を並べ、バランスボールに座り、イヤホンをつけての受講。さらに2021年度対面授業に向けて第三体育館多目的室にロッカーを移動し更衣室を分散、網戸の設置など準備を進めました。ようやく対面再開と思われた時、まさかの第一体育館天井落下、第三体育館はワクチン接種会場に…。なかなか思うようには運びませんでしたが、ミリアム館や第二体育館をお借りし授業を継続。なんとかなる、そんな気持ちになりました。

改めて当たり前だった日常がそうでないことを痛感します。学生対応はメールが中心となり、顔が見えない状況でしたが、今では対面も可能になり、結果多様な対応ができるように。2022年度、年間を通して対面授業ができたことは大きな喜びでした。使っていなかった用具の劣化は、予想外でしたが。そして今年度、定員の縮小や消毒など感染対策継続の中、体育館には元気な学生たちの声が響きます。この場をお借りして、皆さまのご協力に感謝します。

（体育研究室）



第一体育館内でのオンライン受講の様子

大学報告

2022年度認証評価の結果について

2022年度は、大学基準協会による認証評価受審の年であった。内部質保証の中核を担う大学企画評価会議を中心とし、各部署の協力を得て、「自己点検・評価報告書」をとりまとめると同時に、10月12日、13日の2日間にわたる実地調査を経て、2023年3月、「基準に適合する」という最終報告を受け取った。

以下、今回の評価の主な点を記す。

長所としては、「クローバーゼミ」、および「地域創りリーダー養成プログラム」が取り上げられた。前者は、学部・学科を超えた少人数アクティブラーニングにより、「多角的に物事を捉える視点」や「自ら学ぶ力」の涵養に資するとして評価された。後者に関しては、地域社会のリーダーとしての資質を育て、教育を通して、実際に地域の活性化に貢献している点が高く評価された。

ただ、いくつかの改善課題も示された。一つは、いくつかの学科や大学院において、定員に対する在籍学生の比率が低いことについての指摘であり、定員管理を徹底することが求められた。もう一点は、学位授与方針に示した学習成果の測定方法が定まっていない点についての指摘であり、学習成果の可視化の具体的方策を定めることが求められた。

大学としては、指摘された長所を伸ばすと共に、改善課題に適切に対応して、今まで以上に、大学としての質の向上に努めていきたいと考えている。

(FDセンターディレクター)



認定証

大阪ガス都市開発との産学共創ワークショップ

昨年度に引き続き、本学学生と大阪ガス都市開発株式会社の方とともに、実際の業務課題をテーマとして課題解決に取り組み、新たな価値創造を目指す産学共創ワークショップを3月29日、30日の2日間にわたり開催しました。

参加した10名の学生は3つのグループに分かれ、ファシリテーターの近藤令子氏のアドバイスを受けながら、大阪ガス都市開発の社員のメンターの方と一緒にワークを行い、プレゼン発表を実施しました。

今年度は「その街に住みたくなる交流型寮と2030年の住まいを考えよう」をテーマとして、1日目は、神戸市が抱える課題を解決するような交流型寮の共用施設・交流イベントの商品企画、2日目は実際にマンションショールームへ出向きマンションデバロッパーとして2030年の暮らしを提案しました。

学生たちは、大阪ガス都市開発の社員の方々と、グループワークの時間以外にもランチタイムや座談会に気軽に話をするのができ、楽しい時間を過ごせたようで、学生からは、「人前で発表することは苦手だったが頑張ることができた」「働く方の生の声を聞くことができて参考になった」「ビジネスの世界を垣間見ることができた」「参加者みんなと仲良くなることができた」などの声が寄せられ、この経験をこれからの学びや社会活動に生かしていこうという前向きな気持ちで2日間を終えた様子でした。

今回、開催くださった大阪ガス都市開発株式会社の皆様に御礼申し上げます。

大学では今後も、学生と学外を結ぶ企画を実施してまいります。

(学長室課長)



集合写真

バングラデシュ映画『風』字幕制作&上映

英文学科のバングラデシュ映画日本語字幕制作および大阪アジア映画祭での上映の取り組みは今年で4回目を迎え、映画祭主催者からは「バングラデシュ映画が同映画祭の定番になりつつあり、注目度も高まっている」との嬉しい声も聞かれました。

今年の対象映画は『風』（原題 Hawa、メジバウル・ラフマン・シュモン監督）で、2022年にバングラデシュ国内および欧米で空前の大ヒットを遂げたミステリー系エンターテインメント映画です。131分の超大作で、字幕数も例年の倍以上あり、翻訳も確認も残業を要する作業となりましたが、30人の有志学生たちも、指導にあたった Jones 准教授と南出も、粘り強く、決して手を抜くことなく取り組みました。

映画の字幕制作は単なる言葉から言葉への翻訳ではありません。映画は画像と言葉が一体となってメッセージやストーリーを伝えます。言葉が画像とズレては伝わりません。またベンガル語（原語）や英語（字幕）での表現の面白さを理解し、それらを日本語の文脈に置き換えてこそ、日本語字幕でその映画を観る観客を楽しませることができます。これが、機械翻訳では不可能なメディエーター（仲介人）の仕事です。そして何より、機械を使いこなすだけでは味わえない表現吟味の過程に学生たちがやりがいを感じていることが、本取り組みの大切な意義です。

次回（2024年3月）はいよいよ5回目、英文学科として取り組む最後となります。1人でも多くの方に映画祭にお越しいただき、学生たちが制作した字幕でバングラデシュ映画を楽しんでいただければと思います。

（英文学科准教授 南出 和余）



字幕制作に参加した学生たち（3月14日映画祭上映後）

DKKスポーツクラブ対抗戦3年ぶりの開催

2月18日に同志社女子大学京田辺キャンパスにてDKKスポーツクラブ対抗戦が開催されました。

DKKスポーツクラブ対抗戦は、同志社女子大学、京都女子大学、神戸女学院大学の体育会系クラブがお互いの交流を深め、より一層発展することを目的として1993年度よりスタートしました。新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら2年間の中断を余儀なくされましたが、今年は3年ぶりに開催することができました。

本学からは、ラクロス部、チアリーディング部 VENUS、ダンス部 Dance Lovers、バスケットボール部の4クラブ25名が参加し、玉入れや縄跳び、バスケットボールシュート対決、ドッジボール、大学対抗リレーに出場しました。各競技白熱した戦いで、応援も大いに盛り上がりました。

また、お昼休みには各大学でアトラクションを行い、本学はチアリーディング部 VENUS がパフォーマンスを披露しました。完成度の高いパフォーマンスに歓声が上がリ、イベントに華を添えました。

一致団結して競技に取り組むことで、普段あまり関わりのない他クラブの学生とも交流を深め、クイズ大会では大学間を超えての関わりもあり、参加した学生たちは充実した一日を過ごすことができました。

今後も各クラブの更なる発展を期待します。

（学生生活支援センター）



DKKスポーツクラブ対抗戦 集合写真

芦屋市と包括連携協定を締結

神戸女学院大学は芦屋市と包括連携協定を締結することとなり、1月23日、中野敬一学長、いとうまい芦屋市長、福岡憲助芦屋市教育長が出席して、芦屋市役所にて協定締結式を実施しました。

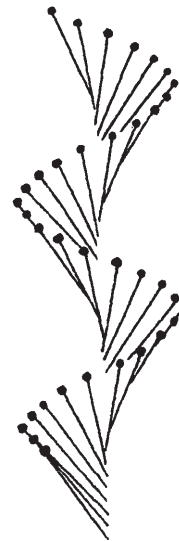
本協定は、芦屋市及び神戸女学院大学が、市民参画協働による豊かな地域社会の活性化と住民が安心して暮らせる地域づくりに資するための協力に関し、必要な事項を定めることを目的とするものです。この目的達成のために相互に連携協力する事項としては以下のものがあります。

- (1) 子育て支援に関すること
- (2) 健康増進に関すること
- (3) 教育・研究・文化振興に関すること
- (4) 青少年育成に関すること
- (5) 男女共同参画に関すること
- (6) 地域共生社会に関すること
- (7) その他地方創生に関すること

具体的には、音楽によるアウトリーチの活動の一環として、本学音楽学部の学生が芦屋市の幼稚園にてコンサートを行うことや、本学の学生による子育て支援、防災や環境に関する取り組みなどを予定しています。

締結式では学長から「大学のノウハウを生かし、地域社会の活性化に少しでも貢献したい」との言葉がありました。これからも、本学では地域と連携して、教育活動に努めてまいります。

(学長室課長)



包括連携協定締結式

愛校週間と春季宗教強調日礼拝

創立者イライザ・タルカット先生の誕生日を含む1週間は愛校週間としてまもり、創立者の思いを確認する時としています。チャペルアワーでは、卒業生である職員3名からお話を伺うことができました。5月22日には教職員、同窓生の代表者あわせて26名が、ともに神戸再度山にあるタルカット先生の墓前にて礼拝をまもりました。帰途、代表者が神戸女学院最初の校地である神港学園を訪問しました。特に今回はコロナ禍に入職された方々が多く参加され、タルカット先生のお誕生日当日に先生のご生涯に思いを馳せながら祈りの時間をもつことができ嬉しく思います。

大学では毎年、金曜日のアッセンブリアワーにて、春季宗教強調日礼拝（創立者記念日礼拝）をまもります。本年は飯謙院長より「創立者イライザ・タルカット先生（1836-1911）―神戸女学院建学の祈り―」と題して、ご講演いただきました。

タルカット家の歴史、来日前の先生の歩みや神戸女学院が創立された経緯など、丁寧にご説明くださいました。タルカット先生は会衆派の家に生まれ育ち、教師の道を歩まれました。ご親族のご不幸や看病により職を辞すなど、一本道を進まれたわけではありませんでした。しかし、自分のためではなく隣人の喜びのために、自らのタラント（才能、たまもの）を尽くして行動され、日本でご生涯を閉じられました。先生の「愛神愛隣」の精神は、学院に連なる多くの人々の心に刻まれ、今を生きる私たちへと受け継がれていることを改めて感じさせられました。最後に、タルカット先生に学んだ卒業生で、学校や教会の設立に尽力された不破（村山）きよ氏についてご紹介され、講演が終了しました。

今年度も建学の精神について良い学びの時をもつことができ、深く感謝いたします。

（チャプレン室）

2022年度 神戸女学院大学図書館報告

1. 統計

・蔵書数（冊）

	2022年度受入	2022年度末現在
和書	2,151	270,458
洋書	228	173,560
合計	2,379	444,018
AV資料	2点	4,174点

・2022年度貸出状況（冊）

学 生	11,101
教職員	2,353
外来者	613

・2022年度相互利用（件）

	文献複写	図書借用	閲覧	照会
依頼	607	81	15	9
受付	262	22	6	27

2. 受入図書

・教育資料費による図書購入

『日本占領期性売買関係 GHQ 資料』第1巻 ほかに計16タイトル 44冊

・寄贈図書

『短歌の時間』ほか 計68冊

3. ガイダンス

- ・新入生対象 対面：15回
(心理・行動科学科学生のみ Moodle 上の動画を視聴)
- ・2回生対象 対面：3回
- ・3回生対象 対面：17回
(うち1回は4回生も出席)
- ・4回生対象 対面：1回
- ・音楽研究科対象 対面：1回

4. そのほか

10月12日～12月20日にかけて「松岡享子展 神戸女学院で過ごした日々を中心に」を開催しました。英文学科卒業生である松岡さんは、在学中英語に磨きをかけ、卒業論文執筆の過程で「library」ということばと出会いました。子どもと子どもの本のために尽くされたその生涯を、ご遺族の松岡恵実さんや東京子ども図書館からの貸与品と学院資料などによりご紹介しました。一般観覧者も含め、多くの方が全国から足を運んでくださり、学内外合わせて計2,721名の来場者がありました。

（図書館課長）

2023年度 大学・大学院入学試験結果概要

●大 学

学 部	学 科	入学定員	入学者数
文学部	英文学科	150	57
	総合文化学科	200	163
音楽学部	音楽学科	40	55
人間科学部	心理・行動科学科	96	104
	環境・バイオサイエンス学科	80	52
合 計		566	431

●大 学〔編入学（3年次）〕

学 部	学 科	入学定員	入学者数
音楽学部	音楽学科	1	1

●大学院（修士課程・博士前期課程）

研究科	専 攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	13	6
	比較文化学専攻	5	0
人間科学研究科	人間科学専攻	10	13
音楽研究科	音楽芸術表現専攻	7	8
合 計		35	27

●大学院（博士後期課程）

研究科	専 攻	入学定員	入学者数
文学研究科	英文学専攻	2	0
	比較文化学専攻	2	0
人間科学研究科	人間科学専攻	2	0
合 計		6	0

2023年度 在籍学生数
(2023年5月1日現在)

●大 学

学部・学科	文学部			音楽学部	人間科学部			合計	
	英文学科	総合文化学科	小計	音楽学科	心理・行動科学科	環境・バイオサイエンス学科	小計		
1年	23000	57	163	220	55	104	52	156	431
2年	22000	90	161	251	39	110	46	156	446
3年	21000	91	173	264	42	87	74	161	467
4年	20000	151	222	373	38	111	79	190	601
合計	19000	19	16	35	3	8	2	10	48
	18000	1	2	3	1	2	1	3	7
	17000	0	1	1	0	1	0	1	2
	16000	0	1	1	0	0	0	0	1
合計	409	739	1148	178	423	254	677	2003	

●大学院修士課程・博士前期課程

研究科・専攻	文学研究科			人間科学研究科	音楽学部	芸術表現	合計
	英文学	比較文化学	小計	人間科学	音楽	芸術表現	
1年	2300	6	0	6	13	8	27
2年	2200	4	4	8	12	6	26
合計	2100	0	1	1	1	0	2
	2000	0	0	0	0	0	0
	1900	0	0	0	0	0	0
1800	0	0	0	0	0	0	
合計	10	5	15	26	14	55	

●科目等履修生

学 部	5
大学院	0

●聴講生

学 部	3
大学院	4

●大学院博士後期課程

研究科・専攻	文学研究科			人間科学研究科	合計
	英文学	比較文化学	小計	人間科学	
1年	2300	0	0	0	0
2年	2200	0	1	1	0
3年	2100	0	1	1	0
合計	2000	0	0	0	0
	1900	0	1	1	1
	1800	0	0	0	0
合計	0	3	3	1	4

2022年度 就職状況報告

学 科	卒業生数	就職希望者数	就職決定者数	就職率	進学者数	実就職率
				就職決定者／ 就職希望者	大学院	就職決定者／ (卒業生－院進学者)
英 文	146	130	129	99.2%	7	92.8%
総合文化	216	191	188	98.4%	4	88.7%
音 楽	44	26	26	100%	6	68.4%
心理・行動科	100	77	76	98.7%	10	84.4%
環境・バイオエンス	101	81	81	100%	11	90.0%
合計	607	505	500	99.0%	38	87.9%

(2023年4月末日現在)

2022年度の就職活動のキーワードは「早期化」及び「長期化」です。コロナ禍に減少したインターンシップの参加率や実施率が増加し、インターンシップに参加した学生が早期に企業説明会や選考に参加する機会があるなど、マッチングプロセスの早期化が目立ちました。また就職活動期間においても、特にインターンシップに参加した学生において活動開始時期が前倒しになり、活動期間が長期化している傾向がありました。

企業側の採用意欲は回復の兆しが見え始め、2023年3月卒業予定の大学生・大学院生対象の求人倍率が1.58倍となり、コロナ禍前の水準までには戻りませんでした。2022年卒業生の1.50倍から僅かながら増加しました。

学生生活の大半をコロナ禍で過ごすことになり、思うようにキャンパスライフを送れなかった学生もいる中で、本学の2022年度の実就職率（就職希望者に対する就職者の比率）は99.0%と前年度比0.2ポイント上回りました。産業別では「製造業」、「教育、学習支援業」及び「運輸業、郵便業」の比率が増加しました。大学院進学者数38名となり昨年より微増しました。

その他の動きとして2022年度（2022年6月）には、インターンシップの在り方についても、大きな動きがありました。文部科学省、厚生労働省、経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」（3省合意）が改正され、キャリア形成支援に係る取り組みが4つに類型化されました。この改正は、2023年度のインターンシップから適用され、一定の基準を満たしたインターンシップに参加した学生情報を、当該企業が卒業年次前年3月以降の採用広報活動や、卒業年次6月以降の採用選考活動に使用できることとなります。

キャリアセンターでは今後も更に企業の人事担当者、就職情報提供企業などから情報収集を行い、学生が戸惑うことなく安心して就職活動に取り組めるよう引き続き努めてまいります。

(キャリアセンター課長)

主な就職先**建設業**

一条工務店／大和ハウス工業／独立行政法人水資源機構

製造業

アルインコ／アルピオン／伊藤園／オリエンタルモーター／キーエンス／極東開発工業／小松製作所（コマツ）／サラヤ／ジャヴァコーポレーション／昭和産業／住友金属鉱山／住友電気工業／第一三共ヘルスケア／大真空／タカラバイオ／東ソー／東リ／日本精機／日本電気（NEC）／日本圧着端子製造／日本たばこ産業（JT）／ハイレックスコーポレーション／ファミリア／ベベ／ミキモト／三菱ふそうトラック・バス／レリアン／ロックペイント

ガス業・水道業

静岡ガス／大阪広域水道企業団

情報通信業

NSD／T&D 情報システム／日本アイ・ビー・エム デジタルサービス／富士ソフト／富士電機 IT ソリューション／北海道テレビ放送／ロジスティードソリューションズ

運輸業、郵便業

ANA 成田エアポートサービス／ANA 関西空港／ANA 大阪空港／ANA 沖縄空港／JAL スカイ／JAL スカイ大阪／K スカイ／羽田空港サービス／フジドリームエアラインズ／大阪市高速電気軌道（Osaka Metro）／阪急電鉄／西日本旅客鉄道（JR 西日本）／川西倉庫／キリングループロジスティクス／佐川グローバルロジスティクス／神鋼物流／全農物流／日本通運／三井倉庫サプライチェーンソリューション／三井倉庫ホールディングス／郵船ロジスティクス／日本郵便

卸売業、小売業

伊藤忠食品／岩谷産業／大月真珠／コニカミノルタ ジャパン／住友商事マシネックス／トラスコ中山／リョーサン／そごう・西武／阪急阪神百貨店／ケリングジャパンイヴ・サンローランディビジョン／トリーバーチ・ジャパン／フルラジャパン

金融業、保険業

三菱 UFJ 銀行／三井住友信託銀行／常陽銀行／池田泉州銀行／但馬銀行／紀陽銀行／広島銀行／豊橋信用金庫／尼崎信用金庫／中兵庫信用金庫／香川県信用組合／あいおいニッセイ同和損害保険／共栄火災海上保険／住友生命保険／太陽生命保険／日本生命保険／明治安田生命保険／農林中央金庫／紀の里農業協同組合／兵庫六甲農業協同組合／NTT・TC リース／MS&AD 事務サービス／三井住友トラスト・ビジネスサービス／明治安田オフィスパートナーズ

不動産業、物品賃貸業

三井住友トラスト不動産／三菱 UFJ 不動産販売／阪急阪神ビルマネジメント

宿泊業、飲食サービス業

神戸ポートピアホテル／星野リゾート／ホテルモントレ／リゾートトラスト

教育、学習支援業

福井大学／兵庫医科大学／大阪市中学校教員／兵庫県中学校教員／兵庫県立学校職員／神戸市小学校教員／和歌山県中学校教員／岡山市中学校教員／ECC／島村楽器

医療、福祉

社会保険診療報酬支払基金／日本年金機構／大阪府国民健康保険団体連合会

サービス業

アース環境サービス／学情／サイバーエージェント／JAL ナビア／セコム／総合警備保障／PwC 京都監査法人／楽天野球団

公務

防衛省 陸上自衛隊／国税庁 熊本国税局／警視庁／千葉県／川崎市／滋賀県警察／大阪府／大阪市／豊中市／兵庫県警察／明石市／加古川市／高知県警察

主な進学先**英文学科**

神戸女学院大学大学院 文学研究科／神戸大学大学院 国際協力研究科

総合文化学科

立命館大学大学院 文学研究科／関西大学大学院 文学研究科／兵庫教育大学大学院 学校教育研究科／神戸市外国語大学大学院 外国語学研究科

音楽学科

神戸女学院大学大学院 音楽研究科

心理・行動科学科

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科／大阪公立大学大学院 文学研究科／神戸松蔭女子学院大学大学院 文学研究科／愛媛大学大学院 教育学研究科

環境・バイオサイエンス学科

神戸女学院大学大学院 人間科学研究科／筑波大学大学院 理工情報生命学術院／神戸大学大学院 医学研究科／兵庫教育大学大学院 学校教育研究科／兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科／奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科／広島大学大学院 統合生命科学研究科／九州大学大学院 生物資源環境科学府

2023年度 キャリアサポートプログラム (予定)

◆大学3年生・大学院1年生対象

- 4/19(水) 就職ガイダンス①、
インターンシップガイダンス
- 4/20(木)、28(金)
夏インターンシップ準備講座：
企業の探し方
- 4/26(水) インターンシップ選考対策講座①
書類対策編：学チカ
大学院生のための就職ガイダンス
- 5/ 8(月) 夏インターンシップ準備講座：
企業の探し方 ※4/20、28と同じ内容
- 5/10(水) インターンシップ選考対策講座②
書類対策編：自己PR、志望動機
適性検査対策ガイダンス
- 5/17(水) 《就活ベーシック講座①》「自己PR」入門
- 5/24(水) 《就活ベーシック講座②》
履歴書・エントリーシート
- 5/26(金) グローバル就職セミナー
- 5/31(水) SPI 模擬試験
- 6/ 7(水) 《就活ベーシック講座③》志望動機
- 6/14(水) 《就活ベーシック講座④》
業界研究・企業研究
- 6/21(水) 《就活ベーシック講座⑤》職種研究
- 6/28(水) 《就活ベーシック講座⑥》社会人マナー
- 8/ 1(火)～3(木) 自己分析とコミュニケーション講座
- 8/22(火)～25(金) KC エアラインスクール
- 9/27(水) インターンシップ事後研修会
- 10/ 4(水) 就職ガイダンス②
- 10/ 5(木) 秋・冬インターンシップミニ講座
(基礎編・応用編)
- 10/11(水) 《就活ベーシック講座⑦》就活マナー編
- 10/16(月)～18(水) 言語・非言語 Web テスト
- 10/18(水) 適性検査対策ガイダンス
- 10/25(水) 《就活アドバンス講座①》
グループディスカッション
- 11/ 8(水) 《就活アドバンス講座②》面接
- 11/15(水) MOVICATION：面接対策講座
- 11/16(木) 《就活アドバンス講座③》
グループディスカッション 実践編①
- 11/25(土) OG 訪問会
- 11/29(水)～30(木) 《就活アドバンス講座④》
面接入門講座①
- 12/ 5(火)～7(木)、14(木) 《就活アドバンス講座⑤》
面接入門講座②
- 12/6(水)～8(金) 学内証明写真撮影会
- 1/10(水) 企業・業界の選び方セミナー
- 1/17(水) 就職ガイダンス③
- 1/19(金) お勧め企業紹介セミナー：
学内セミナー参加企業編・OG 企業編
- 1/24(水) 就活総おさらいセミナー

1/25(木) 《就活アドバンス講座⑥》
グループディスカッション 実践編②

1/29(月)～31(水) 言語・非言語 Web テスト
1/29(月)～2/2(金) 《就活アドバンス講座⑦》
面接体験講座

2/28(水) 模擬面接講座①
3/ 1(金) 模擬面接講座②
3/ 6(水) 模擬面接講座③
3/ 8(金) 模擬面接講座④
3/13(水) 模擬面接講座⑤
3/15(金) 模擬面接講座⑥
3/22(金) 模擬面接講座⑦
3/27(水) 模擬面接講座⑧
3/29(金) 模擬面接講座⑨
※このほか、後期に自己分析サポート面談、ゼミ訪
問等を実施。

◆大学4年生・大学院2年生対象

4/ 7(金) 模擬面接講座①
4/14(金) 模擬面接講座②
4/17(月) 就活総おさらいセミナー
(就活対策パッケージ)
4/21(金) 模擬面接講座③
4/28(金) 模擬面接講座④
5/12(金) 模擬面接講座⑤
※キャリアカウンセラーによる面談は前期中毎日実施。

◆大学2年生対象

5/26(金) グローバル就職セミナー
6/16(金) 進路ガイダンス
12/15(金) 就職ガイダンス
1/19(金) お勧め企業紹介セミナー：
学内セミナー参加企業編・OG 企業編

◆大学1年生対象

5/26(金) グローバル就職セミナー
6/30(金) キャリアガイダンス
9/29(金) 1年生のためのキャリアデザインセミナー

◆大学1～3年生・大学院1年生対象

4/21(金) 春の公務員ガイダンス
4/28(金) 公務員人物試験・
時事問題対策オンラインガイダンス
5/12(金) 公務員ガイダンス 仕事編・試験対策編
5/19(金) 神戸市によるガイダンス
5/26(金) 公務員受験対策講座説明会
(各専門学校より説明)
6月～7月 業界探究セミナー (金曜日)
10月～11月 仕事発見セミナー (金曜日)
12/ 1(金) 地方就職セミナー
2月 企業研究セミナー

<受入留学生報告>

Studying Abroad in Japan

ポーリンググリーン州立大学交換留学生

My year here at Kobe College has taught me a lot of things. When I arrived in Japan, I only spoke a little Japanese and was very nervous about making friends. It was also my first time traveling abroad, and by myself at that. I was quite relieved and grateful to be so warmly accepted by the people here. Even those that do not speak English try to approach me from time to time. Starting work in the English Zone was also greatly rewarding and allowed me to make more connections with other college students. Many students have taught me a lot about Japanese culture in that room and I hope I was able to impart some cultural knowledge myself about the U.S. With the help of my friends, my “buddies”, and IPC I have been able to explore a lot. I have traveled to Kyoto, Kobe, and Osaka numerous times with friends and enjoyed it a lot. I was also able to stay with a couple host families during the holidays and experience Japanese home life. I think out of all these experiences, traveling to Hakodate was my favorite. Coming from Ohio, I have always been a fan of cold weather. Though my time here was only a year, I am extremely grateful for all the lessons I have learned and the people I have met! 本当にありがとうございます!!

A blast in Japan

サムヒューストン大学交換留学生

Kobe College was a wonderful experience, and I am pleased to have spent time here. It has been such a rewarding learning adventure from connecting with many intelligent and friendly students and professors. In addition to being able to immerse myself in many enjoyable opportunities provided. Upon my arrival to Japan, I was incredibly nervous and overwhelmed because of the unfamiliarity of a new place. But, as time went on and I became more comfortable and began meeting new people, everything became much easier, even speaking Japanese. During my time here, it was immensely helpful to have a thoughtful and warm-hearted buddy that would explain events or help me with anything I was confused about. The students at Kobe College are extremely supportive and I am glad I got to become friends with them. Since Kobe College is in the middle of major popular cities, I was able to learn more about Japanese culture through going out and experiencing a multitude of once in a lifetime events and meeting unique people that would inspire me in a plethora of ways. I am grateful to have been a part of the exchange program and to everyone who lent a helping hand during my time here. Thank you for the amazing experiences and allowing me to not only grow personally but also have the best study abroad experience I could hope for.

私は一人ではありません

広東外語外貿大学交換留学生

日本に来て神戸女学院大学で約8ヶ月の生活を送りました。この間どうもありがとうございました。

日本に来て最初の光景は今でも覚えています。関西国際空港に着いて、バディさんはもう私を迎えに来ていました。そして、神戸女学院大学に連れて行ってくれました。バディさんは親切に私にいろいろなことを教えてくれましたのに、私は日本語が下手で、「はいはい」しか答えられませんでした。大学に着いて、国際交流センターの方々も親切に挨拶をして、寮のこととその後の予定を説明したり、私の部屋に案内したりしてくれました。その時、私の答えも「はいはい」しかありませんでした。夜、部屋にいた時に、私は「外は日本語ばかりで、部屋から出たくない」と思ってしまいました。

しかし、この状況は変わりました。

その後の一週間ぐらいの間に、国際交流センターの職員と公的手続きをしに行ったり、バディさんと西宮北口へ行って買い物をしたりしました。みんなはとても優しく、分からなかったところをよりやさしい言い方で説明してくださいました。この間、皆様のおかげで、私は少しずつ日本で生活に慣れるようになりました。

まもなく新学期が始まりました。毎週会話の授業後ハグしてくださった先生方と友人になったクラスメイトたちに出会った私は幸運な人間だと思います。私は日本人学生と一緒に授業を受ける時に、担当の先生は常に「大丈夫ですか。ここは分かりますか」と私に聞いてくれ、とても感動します。私は毎日頑張って、すべての内容を分かるように努力しています。私の日本語は少しずつ進歩していて、日本で上手に生活を送る自信を持つようになりました。これは日本語の進歩だけではなく、ある心の成長でもあります。

一人で外国で生活することは難しいと思います。しかし、私は一人ではありません。この温かい思い出を私は一生忘れられません。皆様が私を温かくお世話をしてくださったことを重ねてお礼申し上げます。

素敵な日々

文藻外語大学交換留学生

神戸女学院大学への留学は2022年9月から今に至ってもう8カ月もすぎました。最近雨が降り続く日が多くて、よく寮のベランダで雨の匂いを感じながら、周りの新緑を眺めます。9月からきて、真っ赤な紅葉から、小雪がちらつく夜と舞い落ちる桜を渡って、もうすぐ夏にかかります。台湾で夏は卒業の季節なので、夏がくるとなんとなく切ない気がします。今留学の終わりに近づいてきて、より一層寂しさを感じます。この美しい神戸女学院大学の校庭で四季の移り変わりを体験することができて素敵な思い出を作ることができる自分は幸せだと感じて、残りの3カ月も大切にしたいと思います。

神戸女学院大学で少人数制の授業を受けて、先生とクラスメイトとの距離を縮めることができたのは嬉しいです。新しい知識を学んで、クラスに馴染むことができて、日本語を練習する機会もたくさん得て、本当に勉強になりました。歓迎会とかクリスマスパーティーとか色々なイベントに参加することができたことも楽しかったです。そして、ここで初めて心理学の授業を受けて、心理学の授業が面白くて、自分の好きなことを発見する機会を得たのも今回の留学のおかげです。神戸女学院大学へ留学に来て、新しいことにチャレンジすることが増え、新たな考えができるのは本当に良かったと思います。

留学を申し込む時色々な心配事もありましたが、ここで支えてくれる先生と友人がいて、本当にお世話になりました。先生たちとの出会い、友人との出会い、綺麗な四季との出会い、新しい趣味との出会い、ここでの1年は素敵な出会いが溢れて、心から感謝して、振り返ってみると自然と微笑みが出るほど幸せな時間でした。ここでの経験は素敵な思い出として大切にしたいし、ここでの学びを将来の人生で活かして、自分をもっと成長させたいと思います。最後に神戸女学院大学のみんなにありがとうの一言を伝えたいと思います。

やっぱり日本に来てよかったと思います

文藻外語大学交換留学生

私は語学を学ぶことに大きな情熱を持っており、そのため、子どもの頃から「いつか交換留学に応募して留学したい」という目標を持っていました。留学は自分を成長させる良い機会になると思っていたので、それが日本語を学ぶ動機となり、夢となりました。日本語の勉強をして、日本に住んで文化や人々に触れ、より日本人っぽい会話を身につけたと思うのは自然なことでした。

留学前は日本語を専攻していましたが、間違った日本語で自分の考えや意見をうまく伝えられないという不安と、上手に日本語で話しかけることができないという気持ちがありました。しかし、この留学期間中で、私の日本語の会話は本当に大きく向上しました。日本語で話すことが習慣になり、日本人の友人と日本語を話したり、質問したり、意見を述べたり、意見を交換したりすることがもう怖くなくなりました。おかげで、宝塚市で開催された外国人向けのスピーチコンテストに参加し、1位を獲得することができました。これは私にとって貴重な体験でもあり、もっと日本語を勉強しようという決意と、将来は日本で働きたいという思いが強くなりました。

友人を作るという点では、日本に来てから、友人を作るのに国境がないことに気づきました。日本に来てから、留学生でも日本人でも、多くの友人ができました。彼らとの出会いは、私の学生生活を豊かにし、充実させてくれました。私が日本を離れても、いつかお互いの国を旅行することを約束しました。彼ら全員と築いた友情は私の宝物です。この交流は、私の人生に素晴らしい経験と思い出を残してくれました。考えること、行動すること、学ぶこと、運動すること、生きること、適応することが、私の留学の最も有意義な点です。私にとっての留学の意義は、自分自身と世界について学ぶ機会を与えてくれたことであり、それによって自分の人生について選択する権利を与えてくれたことです。私は留学を真剣に考え、さまざまなことに挑戦し、自分を表現し、自分の権利のために戦いました。交換留学で日本に来たことは、私にとって本当にベストな決断のひとつでした。

<派遣留学報告>

文藻外語大学

派遣留学報告

文学部 英文学科 4年生

私は2022年の9月から半年間、台湾の文藻外語大学に派遣留学をさせていただきました。新型コロナウイルス感染症の影響で留学が1年延期になっていましたが、直前に入国の制限が緩和されたことで渡航が決まりました。様々な行動が制限される中で、よりこの留学の機会が貴重なものであると感じました。

留学中は、授業や寮での生活を通して台湾の友人たちと出会い、多様な文化や考え方にふれることができました。また、私は今回の留学で初めて長期間、外国人という立場を経験し、慣れない生活の中で、いつも台湾の人々の優しさに驚かされていました。そして、私も常に相手のためを思って行動できる人でありたいと思います。帰国後は、旅行やお仕事で日本に来られた方々に中国語を用いて通訳のお手伝いをする機会が何度かあり、自分の学んだことが人のためになることをとても嬉しく思いました。今後も目標に向けて勉強を続けていきます。

この半年間コンフォートゾーンを出て生活することで、周りの友人や環境から刺激を受け、改めて自分の将来と向き合うことができました。留学をサポートしてくださった神戸女学院の教授や職員の方々、家族や友人、台湾での出会いに感謝し、留学で得た力をこれからの将来につなげていきます。最後になりますが、留学を検討されている学生のみなさんが良い機会に出会えますよう、応援しています。



派遣先大学の校門

＜中期留学（研修）報告＞

チャタム大学

チャタム大学での経験

文学部 英文学科 3年生

私は、2022年8月後半から2023年2月にかけてチャタム大学の中期英語留学に参加しました。大学での授業、特にクラスメイトと自国と比較しながら話し合いをメインに行ったUS Cultureの授業では、アメリカの文化を学べただけでなく、日本にはなかなか知ることのできない他国の状況についても学ぶことができました。ディスカッションやプレゼンテーションをすることも多く、初めの方は英語で自分の意見を伝えるのが苦手だったのですが、他の国の学生が自分の意見を恐れずはっきりと伝えているのに感化され、自分の意思を持って話し合いをすることができるようになりました。クラスメイトと交流することで英語で話すことの楽しさや、自分の意見を伝える大切さ、そして、英語で話す力を伸ばすことができました。

また、定期的に行われていた学外のコミュニティーに参加したことがきっかけで知り合った方たちと、サンクスギビングやクリスマスと一緒に過ごさせていただいたり半年間で留学する前に自分が想像していた以上に様々な貴重な経験をすることができました。

どんな些細なイベントでも積極的に参加することで自分から英語を学ぶ機会を増やすことができました。半年間の留学を通して英語力だけでなく、自分から行動することの大切さ、人と向き合ってコミュニケーションを取ることを学びました。この経験からより一層英語の勉強に力を入れることはもちろんのこと、どんなことにも自分から積極的に挑戦していきたいと思えます。



一緒に過ごしたクリスマスディナーでの一枚

カリフォルニア大学アーバイン校

人生が変わるような出会い

文学部 英文学科 3年生

私は約7か月間、カリフォルニア大学アーバイン校での中期海外研修に参加しました。私がこの留学をとおして得た一番のことは先の将来にとらわれずに、自分の気持ちに従い挑戦することの素晴らしさです。私がこの留学に参加した目的は進路に悩む日々の中で見失った自分の気持ちと向き合うことでした。留学への参加もギリギリまで悩みましたが、留学を終えた今、留学で得た経験は何事にも代えがたい宝物になったと感じています。そのように感じることはできたのは、世界の様々な国から来た素晴らしいクラスメイトに出会えたからです。私のクラスメイトは年齢層が広く、大学生もいれば、両親と同じくらいの年の方も多くいました。留学をするのは学生が多いと思っていたため、初めはとても驚きました。彼らと過ごす中で、人生を生きていくうえで大切なことを教えてもらいました。何歳になっても自分のやりたいこと興味のあることに挑戦し続けている彼らの姿はとてまかっよかったです。

今思うと自分の将来を考えた時に正解なんてないけれど、失敗をしないためにたくさん悩んで苦しい思いをしていたのだと思います。今はどんなに難しいことでも興味があること、自分がやりたいことは挑戦してみるべきだと思っています。また、もし自分の選択が周りとは違うことだとしてもそれは間違いではないと考えるようになりました。将来、留学先で出会ったクラスメイトと再会した時に誇れる自分でいたいです。



語学学校の修了式にて

ヨーク大学

カナダでの留学生活

人間科学部 心理・行動科学科 3年生

私は9月から2月の後半まで中期海外研修でカナダのヨーク大学に行きました。クラスメイトは全員英語を学ぶために各国から集まっており年齢も様々でした。年下の子もいれば2人の子どもを持つお母さんもいて普段生活していたら関わることのない人たちと同じ教室でグループになってパワーポイントを作ったり、休憩時間には一緒にカフェに行って自分の国について紹介したり、逆に他の国についてお話を聞いたり英語を学ぶ以外にもとても貴重な経験をしました。先生もみんなとても優しく愛にあふれた人が多いです。分からないことがあれば理解できるまで説明してくれるし、授業内容以外にもカナダでおすすめの食べ物やお土産を教えてくださいました。時には家で作ってきた料理を教室まで持ってきてくださってクラスの子と休憩時間にももらうこともありました。先生は留学生に英語を教えているだけあって私の拙い英語の発音でもしっかり聞き取ってくださるし、授業中は聞き取りやすいようにゆっくり話してくださったので楽しく授業についていくことができました。カナダのヨーク大学の生活は学生寮での暮らしになります。その寮では現地の大学生とも一緒なので現地の学生の人と仲良くなることもできます。現地の学生も様々な国から来ているので話していく中で様々な国の文化を知ることができます。英語を学ぶこともでき、他にもカナダならではの経験がたくさんできました。



カナダでのクリスマスの様子

<春期語学研修報告>

カリフォルニア大学アーバイン校

少しの勇気が与えてくれたもの

文学部 英文学科 2年生

私はこの2月、留学に初めて挑戦しました。

自分に自信があるわけでもなく、むしろ失敗を恐れていつも臆病な自分に嫌気が差していた頃でした。そんな時に見た留学のポスターは私をここまで変えてくれるとは当時は想像もしていませんでした。留学先のカリフォルニア大学アーバイン校は緑が多く、建物が何棟もあり、現地の学生はスケートボードで学内を移動していて、初めて見る光景に最初は空いた口が塞がりませんでした。アメリカで出会った多くの人たちは明るく親切で、彼らからは英語だけではなく、バラエティに富んだ考え方や文化などたくさんを学ぶことができました。そして、日本では実際に感じる事が難しい多様性にも生活の様々な場面で触れることができました。1ヶ月の留学を通して、気付いたのは挑戦と経験の価値です。異国の地で挑戦して、成功したら何よりも自信になり、例え、失敗したとしてもそこから成功以上のことを学ぶことができます。そして、経験することで新しい出会いがあり、様々な価値観に触れることができます。経験というのは自分の何よりもの財産になるということに気付くことができました。帰国してからは、たくさんの経験をして更に成長したいと思い、少しでも興味を持ったことには何でも恐れず、挑戦するよう意識しています。留学をサポートしてくれた家族と自分を変えてくれたこの貴重な経験に心から感謝しています。



ノースレイクパークにて

ヨーク大学

コミュニケーションはハートから

文学部 総合文化学科 2年生

私は以前から英語を学ぶことがとても好きであったが、自分の英語力に全く自信がなく、今回の研修を不安に感じていた。だが、そのような不安を優に超えるほど楽しく刺激的で貴重な経験ができた。現地での生活を手厚くサポートしてくれた学生バディとは一緒に遠足に出かけたり、大学の施設やヨークでおすすめのお店などローカルなことからイギリス全体のことまで様々なことを教えてくれたりした。最初にバディに会った日には、ほとんど英語が分からず、さらに自分の英語が間違っていないか不安でたまらなくて、会話が苦痛になっていた。だが、バスや食堂や授業などの身近な会話を通して、間違いを恐れずに声に出す強いハートが大切であると実感することができた。スマホの翻訳で正しい文で会話するよりもよっぽど話は盛り上がる。「コミュニケーションはハートである。」と、どこかで聞いたことがあるが、本当にその通りであると思った。最も嬉しかったことが、バディが私に「会う度に英語が上手くなっているよ!」と温かい言葉をかけてくれたことである。毎日新しい単語や意味、熟語が増えていくことは使える魔法が増えていくようで楽しくて仕方なかった。この研修を通して、文化や生活様式の違いを学ぶことができたのは勿論のこと、言語を学ぶこと、会話をする事自体に大きな魅力と高いモチベーションを得ることができた。研修に関わってくださった全ての方々に感謝でいっぱいである。



遠足で訪れた Whitby にて

梨花女子大学

寮の〇〇〇で覚醒した私

文学部 総合文化学科 4年生

私は今年の2月に、韓国の梨花女子大学で3週間の語学研修に参加しました。大学では、台湾や香港、インドネシアなど様々な国籍の人と一緒に、文法・会話・作文・リスニングの授業を受け、異なる国籍の人同士、韓国語で会話をするという刺激的な日々を過ごしました。日本では、日本語で韓国語の文法を学んでいましたが、現地では韓国語で学ぶ環境になり、当初は授業についていくのに必死でした。中々会話が上達せず、先生に相談したところ、「とにかく色々な人と出会って、話さない。そうすれば慣れる。」とアドバイスをいただき、積極的に毎日人と話すことを実践しました。そんな中、寮生活でトイレが詰まる事件が起こりました。非常に焦りましたが、すぐに事務室に向かい、全力で担当者と話しました。拙い韓国語ではあったと思いますが、なんとか言葉が通じ、業者の方が迅速に対応してくれました。その際必死になって会話をしたせいか、気付くと韓国語に自信が出てきました。その後は、授業も楽しくなり、積極的に外に出て、韓国料理を食べたり、ソウルを観光したり、充実した日々を過ごしました。最終日に先生から言われた「学生のうちの失敗は可愛いから、沢山失敗してそのたびに学べばいい。話すのが得意になるから。」という言葉は、今の私の原動力となっています。これからも失敗を恐れず、何事にも挑戦していきたいです。



先生とクラスメート

<私の研究>

一人ひとりのリカバリーを実現するために

宮脇 英子



私の専門は社会福祉学の精神障害者福祉領域です。大学卒業後、精神保健福祉士として仕事を始め、薬物依存症の方への支援に悩みました。中には違法薬物に依存し、受刑して出所後も使用を繰り返す状況に、なぜ変わらないのだ

ろう、と疑問を持ちました。専門職としての躰きから勉強会等へ参加したり、当事者の方々と関わる中で、なぜ変わらないのだろうか、という疑問から、どうすれば変わることができるのだろうか、と視点が変化し、回復に必要な環境、支援者に求められること等、色々な点が見え始めました。そして当事者が望む方向へ変化を促す専門職支援に関心を持ち大学院へ進学しました。

進学後、リカバリー概念に出会いました。精神障害者福祉領域におけるリカバリーとは、その「回復」が症状の軽快や治療を意味するだけでなく、病気によって阻害された当事者が望む生活を取り戻すことや、差別や偏見からの復権、さらには当事者自身が見出した人生の新たな意味や目標など複合的な意味を含む概念です。精神疾患の特徴として、多くの精神疾患は慢性疾患であり治療により即座に寛解しない点、疾患と障害を併せ持つことが多い点、症状や障害が固定しない点などが挙げられ様々な日常生活での制限に直面します。思いがけず疾患となり逆境の中にありながら新たな生き方を目指し、具体的な生活を描いていくプロセスを支える仕事が精神保健福祉士であると考え、一人ひとりのリカバリーを実現するための専門職の実践内容やその評価に関心を寄せて研究してきました。

担当ゼミでは福祉領域の現場に学生自身にアクセスしてもらう中で、学生の感性やひらめきに刺激をうけています。大学教員となり学生とともに社会的課題に取り組んでいく教育を模索しています。

(心理・行動科学科専任講師)

<ゼミ紹介>

コロナ禍のそして今のゼミ活動

立石 浩一

2020年3月に卒業式と謝恩会が中止、コロナ禍の中でのゼミ活動に突入した中、それについての諸方針の策定に携わっていた立場である私のゼミはことさらに制約を受けた。実験、実習などをするゼミでもなく必然的に対面化も遅れ、やっと昨年度になって普通の感覚が戻ってくるような状況。この間のゼミ生の皆さんには不自由な思いをさせたと思っており、頑張っ卒論を仕上げてくださいったことに心から感謝している。

他の学科内の英語学系ゼミが専門分野特化型なので、「その他」の言語に関するトピックが私のゼミには集まる。キャラ付けと男言葉女言葉の日英比較、欧米のシットコム原語の笑いのポイントがなぜ日本人とずれるのか、ゲームキャラの意味不明言語の音声解析、パラ言語の日英比較、「エセ関西弁」の音響分析など、とにかく雑多。自分で責任を持っていたらテーマに関わらず受け入れるのは、自分がそういう教育を受けてきたからであるが、内容を統一した形でのゼミ指導が難しいので、全体指導としては一般的な言語学の論文の書き方の演習をし、あとは個別指導が中心となる。実際にはかなりこちらの仕事量も多く（こちらも雑多な分野の情報を仕入れる必要もあります）、大変。大変だけど、面白い。非常に面白いゼミにしてくれていることにも、常常ありがたいと思っている。

(英文学科教授)



2022年度卒業式にて

<課外活動紹介>

[クラブ] チアリーディング部 VENUS

部長

チアリーディングで元気と笑顔を届けます！

こんにちは！神戸女学院大学チアリーディング部 VENUS です！

みなさんはチアリーディングがどういうものか知っていますか？

チアリーディングは、ダンスの他にパートナースタuntsといって人の上に人が乗る技が演技の中に組み込まれています。スタuntsは上に乗る人と下で支える人の信頼関係が成功の大きな鍵となっており、仲間を信用して体を預け、そして寄せられた信頼に応えられるよう練習していく中で、先輩後輩関係なく絆を深め合い1つのチームとなっていくます。現在の VENUS は以前よりも人数は少ないですが、チームの団結力はとても強いです。かたい絆で結ばれたこのメンバーでこれからも練習に励み、大技にも挑戦していきたいと思えます！

VENUS の今年度のスローガンは「Dreaming up!」です。尊敬するコーチのお2人に昨年度考えていただいたパフォーマンスの中の最後の曲の題名からとっています。昨年度から大事に踊り続けてきた曲であり、2、3回生はこの曲とともに成長してきました。今まで一緒に踊ってきた先輩方、コーチへの感謝を忘れず、今までのステージの思い出を糧に成長していこうと思いを込めたスローガンです。「Dream」の部分には、観る人みんなを夢中にさせられるような演技をしよう、そして演技している私たちもチアに夢中になれるように、という意味も込められています。このスローガンを胸に、パフォーマンスを通してみなさんに元気と笑顔を届けます！よろしくお願います！



今年2月のステージパフォーマンスより

[クラブ] 学生 YMCA

部長

成長に繋がる活動を

キリスト教の精神に基づいた事業展開をする NPO 法人の YMCA に属する学生 YMCA は、現在 8 名で活動しています。学内での活動としては、エコキャップ活動をしています。この活動は、学内の皆さんの協力によって集まったペットボトルのキャップを分別して郵送し、ワクチンに変えるというものです。その他は学外での活動がメインとなっており、子ども向けイベントのゲームブースでお手伝いや、環境教育イベントのお手伝い、マラソン大会のボランティア活動などのイベント系や、様々な事情で学校に通うことが難しい小・中学生を対象とした施設での定期的なサポーター活動も行っています。自然環境に関わる内容から教育系の内容など、各々が興味のある分野活動に任意参加しています。学生 YMCA の魅力は、活動での幅広い年代の方との交流を通して自分の視野が広がることだと考えています。周りの方の温かさや優しさにふれ、時に助けってもらいながら色々な経験をすることができ、誰かの役に立つ活動ができることにやりがいもあり、ひとつひとつの活動が終わるたび、自分自身の成長を感じます。社会問題を目の当たりにして現状を知る機会もあります。これらの経験はすべて今後の生活の中で活かすことができると考えています。コロナの影響で思うように活動できない期間もありましたが、少しずつボランティア活動ができる環境が戻ってきたので、今後さらに新たな活動に参加していきたいです。



エコキャップ活動の様子

中高部報告

第12回ヨーロッパ女子数学オリンピック報告

高等学部 3年生

4月13日から19日まで行われたヨーロッパ女子数学オリンピック (EGMO) に日本代表として参加しました。EGMOとはヨーロッパの国々をはじめとした世界各国から女子の代表が参加する数学の大会です。新型コロナの影響もあり、日本は数年、現地参加を見合わせていましたが、今年はスロベニア大会に現地参加することができました。大会の内容は、2日間の試験とその後の表彰式、その合間にある観光などです。自分自身の試験内容としては、苦手分野を結局克服することができず、悔しい気持ちもありましたが、運良く銅メダルをいただくことができました。大会では試験以外にも多くの貴重な経験をすることができました。観光でスロベニアの文化に触れることもできましたし、試験の合間のワークショップも充実しており、多くの他国の選手と交流することができました。中学生の時からの大会に憧れ、それを目標に続けてきた競技数学を通じて、一見、手の出し方が分からないような問題でも粘り強く考え続けることの大切さなど、学問としての数学以外のことも多く学ぶことができました。そして様々な局面で多くの方々に支えていただけたからこそ今まで競技数学を続けてこられたことを改めて強く感じました。競技数学はこれで引退となりますが、これからも楽しんで数学を解きたいと思えます。大会関連でご指導くださった先生、諸先輩方、家族、友人をはじめとする応援してくださった全ての方々に感謝します。

プレゼンテーションコンテストに参加して

高等学部 2年生 3名

2月4日に開催された「令和4年度神戸新聞社杯 阪神 ESS ユニオン プレゼンテーションコンテスト」において、SESSは最優秀賞を獲得することができました。今大会のプレゼンテーションのテーマは、“Overseas Tourists are Back: How Should Japan Respond?”でした。私たちは、日本の中高生が、外国人観光客の日本文化体験をサポートしつつ、自身の英語力と日本文化の理解を向上させることができる“The Little Ambassador Project”を考案し、プレゼンテーションを行いました。

まず、日本の中高生の英語力が他のアジアの国々の中高生の英語力と比較して低いこと、日本の伝統文化を継承する次世代の減少などの問題に着目し、解決法について繰り返し話し合い、このプロジェクトの提案に至りました。次に、自分たちのアイデアを視覚的に分かりやすく伝えるための工夫を凝らし、スライドを作成しました。そして、英語の発音やジェスチャーにも気を配り、より説得力のあるプレゼンテーションに仕上げました。大会を通じて、自分の考えの伝え方や英語の大切さについて深く考えることができ、よい経験となりました。

私たちの努力が優勝という結果に繋がり、大変嬉しく思います。8月に開催されるシナリオ・リーディングコンテストにおいても、部員一同協力し合い、全力を尽くしたいと思えます。

最後になりましたが、顧問の先生方をはじめ、この大会に関わってくださった全ての方に感謝いたします。

第5回日本数学A-lympiad 優良賞受賞して

高等学部 3年生

2022年11月13日に開催された第5回日本数学A-lympiadにおいて、私たち3名は優良賞を受賞しました。この大会は、同じ学校に在籍する3～4人のチームで7時間掛け、実社会に起こりうる英文の問題を読み解き、数学の力を利用して社会にとってより良い解決案を提案する大会です。今年度の課題は、ある都市の道路と運搬車との条件を照らし合わせ、より効率的に運搬するルートと使用する運搬車を求めるというものでした。多くの場合分けが考えられ、緻密で正確な作業と忍耐力が必要だったため、何度も心が折れそうになりましたが、3人で声を掛け合い、最後まで楽しく課題に取り組むことができました。

私たちがこの大会に参加したのは、中学3年生の頃から挑戦しようとしていた数学甲子園という大会が新型コロナウイルスの影響によって、3年連続中止となってしまい、その熱量を注ぐことができる大会を探していた時に見つけたことがきっかけです。この大会は、数学の問題を“解く”のではなく、数学の知識を“使って”社会問題を解決するという、新感覚の数学の大会です。だからこそ、数学好きの方はもちろん、数学があまり得意じゃない方にも是非参加していただきたい大会です。この大会に参加し、受賞することができたことを光栄に思います。

最後になりましたが、この大会の参加まで沢山のご尽力くださった先生方に感謝いたします。

第25回「あけてニコリ!! わくわくお弁当コンテスト」

優秀賞受賞報告

中学部 3年生

この度、「カラフル!お花畑弁当」で優秀賞(兵庫県米穀事業協同組合理事長賞)をいただきました。工夫したことは、明石の川津えび、丹波の黒枝豆、淡路島の玉ねぎなど、食材は全て兵庫県産を使い、華やかになるように彩を意識してパブリカと海苔巻きはお花に見立てて作ったことです。最終審査では、大勢の審査員の前で緊張しましたが、審査員の方々が優しく質問してくださり、作った時の気持ちを素直に話すことができました。優秀賞をいただけるとは思ってもみなかったので驚きましたがとても嬉しかったです。

中学部 3年生

私は昨年度、「和顔愛語弁当」で優秀賞(公益社団法人兵庫県栄養士会会長賞)を受賞しました。今回私は、一人暮らしの祖父に向け、発酵食とお米のおいしさを活かした和食弁当を作りました。最終審査では、審査員の方々がとても丁寧に質問をしてくださり、私の祖父やお弁当に対する思いが伝わったように感じて嬉しかったです。またこのコンテストから、誰かのことを思って料理することの楽しさや、日々私の食事を用意してくれている母への感謝を知ることができました。最後になりましたが、コンテスト参加にあたりご協力くださった先生方、本当にありがとうございました。

天文学オリンピック

高等学部 2年生

私は3月5日に開催された天文学オリンピック本選に参加しました。会場は京都産業大学で、試験終了後には神山天文台の見学をさせていただきました。

私は有志地学研究会（旧：地学オリンピック同好会）に所属していて、天文学オリンピックをそこで知りました。もともと天文分野は地学の中でも苦手な分野で、それを克服しようと思って天文学オリンピックを受けました。予選にエントリーした直後から勉強を始め、本選まで一月ほどしかありませんでしたが、勉強をしている間に天文が大好きになりました。

しかし、本選の試験の問題はとても難しく、自分の勉強不足を感じるものでした。ただ、試験中にお菓子を食べても良いなど、気楽に受けられるような配慮があり、リラックスして受けることができました。

試験後の天文台見学では神山天文台で行われている研究についても教えていただきました。観測会も定期的に行われているらしいので少し遠いですが行ってみたいと思っています。

今回は、初めてのチャレンジで十分に準備をしないまま参加しましたが、天文の楽しさを知ることができ、苦手意識を克服することができました。だから今は、次の天文学オリンピックにもしっかり準備をしてチャレンジしようと思っています。

模擬裁判

高等学部 2年生

3月19日に開催された高校生「文学的模擬裁判」日本一決定戦に現高2の7名で参加しました。取り扱った題材は古典落語「河豚鍋」をモチーフにしたもので、店の主人からねぎらいとして出された河豚鍋を食べた丁稚が亡くなるという事件でした。店の主人が丁稚と一緒に河豚鍋を食べたというストーリーは私たち独自のもので、この点を特に評価していただけたのではないかと考えています。

主催者の方から神戸女学院は自由奔放で良かったと言っていただきました。私たちが自由な主張を作れたのは、思いついたことを遠慮せずに言い合えるメンバーだったからだと思います。自分たちらしい模擬裁判をすることができました。

また、今回は東京に行って対面で模擬裁判をさせていただきました。今まで対面での模擬裁判を経験したことがなかったため、法廷での立ち居振る舞いが分からず、みんなで手探りしながら考えました。オンラインだけでは学べないことが多くあり、とても貴重な機会でした。対面で開催していただいたことにとっても感謝しています。

現高2が模擬裁判に参加するのは今回が最後だったので、有終の美を飾れたことが嬉しいです。話すスピードやプレゼンテーションの作り方など今回教えていただいたことをこれからの生活でも生かしていきたいと思っています。

全員で勝てた団体戦

高等学部 2年生

この度、4月15日に開催された西宮市民体育大会バドミントン大会において、B、Cチーム混合団体戦第3位を受賞することができました。S2部員2名、S1部員4名で構成された団体チームでこのような賞をもらうことができるとても嬉しく思います。初戦の第1試合目でS2が負けてしまい、1回戦敗退の危機に陥りましたが、その後S1の奮闘のおかげで準決勝まで駒を進めることができました。S1部員にはとても感謝しています。

また、今回の試合では声援が許可され、4年ぶりにコートサイドからメンバーへの応援ができました。コートサイドから聞こえてくる後輩たちの声援に励まされながらする試合は久々というよりも新鮮で、誰かを全力で声を出して応援するのはとても楽しいものでした。声援が許可されたおかげか、チーム内の距離が縮まったような気がします。先輩後輩関係なくチームの一員として一人ひとりが自分自身の全力を出して試合に挑めたからこそ、この結果を出せたのだと思います。初めは緊張して上手く動くことができませんでしたが、「試合を楽しむ」「ラリーを長く続ける」という目標のもと、初心を忘れずにいられたことは良かったと思います。試合後に先輩から、「楽しそうに試合しているのを見て、よかったよ」と仰ってもらえたので、これからもバドミントンを楽しむことを忘れずにいけたらと思います。

最後にSバドミントン部の顧問の先生方、先輩、同輩、後輩に感謝します。

中高部図書室報告

I. 2022年度の主なできごと

蔵書点検 7月21日(木)～7月28日(木)

読書会 2023年2月1日(水) J1～S2

II. a 2022年度増加図書冊数(資産化図書)

	購入	寄贈	移管	合計
和漢書	0	0	0	0
洋書	0	0	0	0
合計(冊)	0	0	0	0

b 1972年以降受け入れ図書の蔵書冊数の増減(資産化図書)

2022年度 増加数	0
2022年度 除籍数	3
蔵書数(冊)	6,318

c 消耗図書費の蔵書冊数の増減

2022年度 増加数	1,305
2022年度 除籍数	657
蔵書数(冊)	59,013

III. 2022年度貸し出し冊数

J1	6,934
J2	1,459
J3	2,106
S1	1,990
S2	1,023
S3	208
教職員	656
大学生・大学院生	0
その他	1,139
合計(冊)	15,515

貸し出し日数 214日

1日平均 72冊

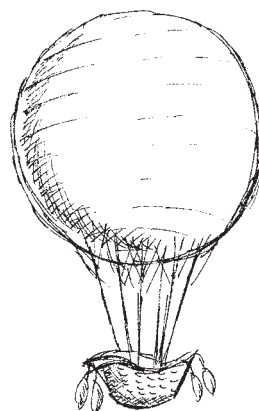
(中高部図書室司書)

2023年度中学部入学試験結果報告

日程：2023年1月14日(土)・16日(月)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
135	254	250	159	144

(中高部事務室)



2023年度中高部受入れ留学生

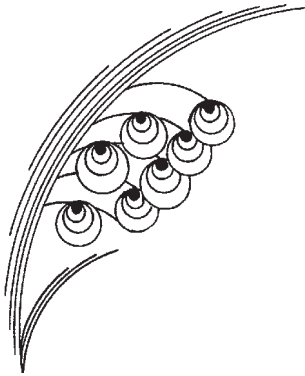
本年度は4月末からAFSからの留学生1名、YFUからの留学生1名が来られています。パナマからのAFS留学生は、S2Aに在籍しています。何事にも興味を持ってチャレンジしようとしています。日本に来て初めての体験も多いようですが、積極的にやってみようという姿勢は、周囲の生徒にも良い刺激を与えてくれています。もう1名はドイツからのYFU留学生で、S2Bに所属しています。アクティブな性格で、クラスでも友人に囲まれて充実した生活を送っています。2人とも年間の留学生で、週に6時間の日本語の授業を受ける以外はS2の生徒たちと一緒に授業を受けたり、行事に参加したりします。

また、今年度初めて9月から来年7月まで、秋からのAFS留学生を受け入れることになりました。オランダからの留学生で、2学期より登校し、S2Cに在籍する予定です。今年度は運よくS2の各クラスに留学生が1名ずつ加わることになりました。

日本から留学に行くという生徒も少しずつコロナ以前の状態に戻つつあり、海外との交流も戻ってきています。夏休みに短期語学研修に参加したり、海外からの短期間の留学生を受け入れたりする機会も増えてきており、良き学びの機会となっています。

世界は広いとはいえ、一方では様々な機器や機会のおかげで世界は狭くなったとも言えます。異文化に出会い、お互いに刺激を与えながら、今まで知らなかった世界を覗き、得た学びを地球市民として、広く社会に還元してくれることを願っています。

(中高部教務課 留学生係)



J1 デイキャンプ報告

4月3日から4日にかけて、中高部内でJ1デイキャンプを開催しました。中学部に入学した生徒たちはJ1デイキャンプに参加し、J3からS3の有志で構成されるリーダーとともに様々な行事を通し、楽しみながら神戸女学院の自由と自治の精神を学んでいきます。

オリエンテーリングでは、中高部校舎内の教室などでゲームをすることで中高部内を少しずつ覚えていきました。レクリエーションでは、体育館で体を動かすゲームをすることで先輩や新しい同級生たちとの連帯感を高めていきました。メディテーション・キャンドルサービスでは、心を落ち着けて讃美歌を歌い聖書のみことばに耳を傾け、中高部長やキャンプ長の生徒の話聞くことにより今後の神戸女学院生活について考える機会を持ちました。また、約2メートル四方の巨大なジグソーパズルのピースをクラス全員で組み立て、学年カラーである黄色に描き、一人一人が各ピースに中高6年間の抱負を記入しました。今年度はコロナ対策も少しずつ緩和され、学年全体での動きが少しずつ復活できました。中高6年間を通して学年全体の結束が強まることを願います。

引率教員は教諭5名でした。J1デイキャンプ開催にあたりご協力くださった皆様に感謝申し上げます。

(ディレクター)

春の子ども会報告

去る4月29日、実に4年ぶりに春の子ども会が開催されました。春の子ども会は近隣の児童養護施設で暮らす子どもたちと神戸女学院・関西学院の高校生とが一日を過ごす伝統ある行事です。今回は5施設の子どもたちを招待し、神戸女学院を会場として開催されました。

本校生徒と関西学院の生徒たちが入念な打ち合わせと準備を重ね、満を持して迎えたこの日、予報を覆す晴天のもと、朝10時前に賑やかな雰囲気の中、開会式が行われました。その後、午前中は葆光館で各種ゲームに興じ、お昼にはGLの高校生と子どもたちと一緒に、本校食堂の方が作ってくださったお弁当に舌鼓を打ちました。午後はグラウンドで思い切り羽を伸ばし、16時には子どもたち全員が、高校生に付き添われ、たくさんのお土産を持って笑顔で帰路につきました。「最高やった」という子どもの一言が実に嬉しい一日でした。

子どもたちに喜んでもらうには、高校生スタッフの皆の、周到な計画力と諸方面への細やかな気遣いに支えられたコミュニケーション力、そして何より豊かな奉仕の精神が必要とされます。コロナ禍のため細かな引き継ぎ資料もない中で、委員長という大役を買って出てくれたS2の生徒、彼女を全力でサポートしてくれたスタッフの皆さん、プレ春の子ども会に参加してくれたJ1の皆さんに心からの感謝を伝えて「報告」といたします。

なお、当日の神戸女学院側の引率教員は3名でした。

(高等学部自治会顧問)

制限なしの舞台

4月24日に行われたJ新入生歓迎会は盛会のうちに幕を閉じました。J新入生歓迎会は軽音楽部、コーラス部、ギター部、ESS部、演劇研究部による文化系クラブの新入生へのお披露目会にもなっており、この舞台を見て入部を決める生徒もいる大事な行事です。

また、文化部の生徒にとっては新しい体制で仕切っていく大きな行事になります。先輩から受け継いだ技を自分たちのものとし、後輩にも引き継いでいく大事な行事です。

この3年間新型コロナウイルス感染症のために様々な制限のかかっていた講堂での催し物でしたが、今回の新入生歓迎会からは、マスクの着用はあったものの、制限を取り払っての開催となりました。声を出しながらの参加に観客も大興奮で、新入生として入学したJ1も神戸女学院生の活力あふれる姿を実感したことと思います。

一方でコロナ禍で長く学校生活を送ってきた生徒たちは、制限から解放された学校生活の忙しさに慣れず、新しいクラスに慣れながら、体育祭の練習、歓迎会の練習、学習への取り組みと様々なことに一遍に取り組まなければならないハードな毎日でした。このような中で一生懸命取り組んでくれた文化部や出演者の頑張りには改めて感心する思いでした。これからもこのような行事を通して観るものも出演するものも満足できる舞台を作っていってほしいと思います。

(中高部教諭)

2023年度 中高部体育祭報告

6月6日に中高部体育祭が開催されました。中高部体育祭は1988年度以降6学年縦割りの6組対抗で行われています。ここ数年はコロナの影響によって、体育祭の在り方自体を柔軟に変化・対応しながら、これまでの体育祭の伝統を受け継いできました。

そして今年は、4年ぶりに保護者の方々にお越しいただき、全校生徒がグラウンドで観戦し、皆で声を合わせて応援する形で、体育祭を実施することが叶いました。

およそ1年前から、体育祭企画実行委員会の生徒たちをはじめ、体育部や縦割り6組それぞれのS3を中心とする組幹部の生徒たちが、話し合いと準備の日々を重ねてきました。生徒たちは、「復活祭」というテーマ、そして「誰も取り残さない体育祭」というスローガンを掲げ、誰もが楽しむことのできる体育祭を目指して、一つ一つのプログラムを丁寧に計画しました。

午前中の新種目である「組色に染めよ」と「因幡の白兔」は、新たな体育祭の花形競技として大いに観戦者を熱狂させ、魅了するものとなりました。体育祭と同日開催で実施した学年対抗パフォーマンス、そして体育祭の最後を締めくくる騎馬戦の開催。かつての体育祭の盛り上がりを取り戻しただけでなく、新しい時代の体育祭を経験するという意味での「復活」の喜びを、皆で共有した一日となりました。

最後になりましたが、施設課の方々をはじめ、体育祭に関わってくださったすべての方に心より感謝申し上げます。

優勝 や組

学年対抗パフォーマンス優勝 S3

(体育祭企画実行委員会顧問)

<課外活動紹介>

[クラブ]

J卓球部

中学部 3年生

私たちのこれからの成長

J卓球部は火、木、金の週3日、第二体育館1階で活動しています。今まで私たちの代の卓球部では指導者もおらず、何を目標として頑張るか、それを達成するためにどのような練習をするべきか分からず右往左往していましたが、ついに5月末から新しくコーチの方に指導してもらえることになり、部全体がこれまでよりも大きな成長を遂げられるのではないかと期待しています。私たちの学年は最後の大会も終わり、残すは引退のみとなりましたが、これから後輩の代の卓球部の進化を見守っていきたいと思います。

[クラブ]

J家庭科研究部

中学部 3年生

J家庭科研究部は、毎週月・火・木曜日に活動し、年に6回ほどお菓子を作ったり、学校行事に向けて手芸作品を作ったりしています。

春には愛校バザーで販売する作品作り、秋に向けては文化祭、冬は施設の子どもたちへのプレゼント作りなどを行っています。

コロナウイルスによる制限が減り、できなかったことができるようになる中、水引き細工やロゼット作りなど新しいことにも挑戦しています。これからも笑顔の絶えない楽しいクラブができるように頑張ります。



[クラブ] Sバスケットボール部

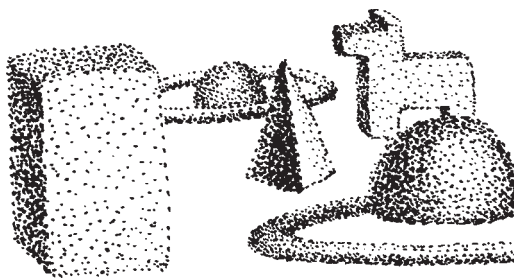
Sバスケットボール部は高校1年生と2年生合わせて9名で活動しています。5月に行われた3年生最後の大会ではチーム一丸となり1勝をあげることができました。活動場所や時間、勉強との両立などで練習量は多くはありませんが、短い時間の中でやることを自分たちで考え日々、練習に取り組んでいますので、応援よろしくお願いたします。

(Sバスケットボール部顧問)

[クラブ] S化学部

S化学部では、部員が興味を持ち、主体的に探した実験に取り組んだり、海外英文誌「*Journal of Chemical Education*」に掲載された実験に取り組んだりしています。昨年度は、先の英文誌に掲載されていた摩擦発光する化合物に関する論文を参考にし、合成を試みました。合成した結晶をスライドガラスに挟み込んでこすり合わせると結晶の発光が確認でき、感動的でした。高校生の段階で、英文で書かれた論文誌を読み、実際に取り組んでみることは有意義なことと考えています。また海外英文誌には、日本の出版物には発表されていない実験素材も報告されており、大変興味深いです。

(S化学部顧問)



〈学院日誌〉

4月3日(月)	新任教職員就任式 オリエンテーション	5月24日(水)	理事会 評議員会 中高部教員会議
4月4日(火)	大学・大学院入学式 学生寮入寮式	5月27日(土)	愛校バザー
4月6日(木)	中高部教員会議	6月6日(火)	中高部体育祭
4月7日(金)	中学部入学式 (保護者2名のみ参列で実施)	6月14日(水)	中高部教員会議
4月10日(月)	高等学部入学式 (保護者2名のみ参列で実施) 始業式	6月16日(金)	教授会
4月12日(水)	大学前期授業開始	6月18日(日)	第2回オープンキャンパス
4月19日(水)	中高部教員会議	6月26日(月)	第1回学長候補者選考委員会
4月21日(金)	教授会	6月28日(水)	理事会 神戸女学院教育振興会役員会 中高部教員会議
4月26日(水)	理事会	7月13日(木)	中高部教員会議
5月10日(水)	中高部教員会議	7月14日(金)	中高部終業日
5月19日(金)	教授会	7月21日(金)	教授会
5月20日(土)	中高部 小学校6年生対象学校見学会	7月24日(月)	第2回学長候補者選考委員会
5月21日(日)	第1回オープンキャンパス	7月26日(水)	理事会
5月22日(月)	創立者記念日 創立者記念日墓前礼拝	7月28日(金)	大学前期授業終了
		7月30日(日)	第3回オープンキャンパス
		8月11日(金・祝)	第4回オープンキャンパス

目次

新学部設置に至る経緯	1
KCC だより	3
故 杉浦 香氏 追悼記念礼拝 (報告)	4
2022年度 愛校バザー会計報告	5
愛校バザー報告	5
創立150周年に向けた取り組みについて	6
神戸女学院創立150周年記念展示「C.B. デフォレスト展」開催について	6
神戸女学院教育振興会寄付金	18
神戸女学院2022年度決算報告、2023年度事業計画及び2023年度当初予算	19
史料室の窓・Pilgrim Place Days	27
事務室探訪	28
大学報告	
2022年度認証評価の結果について	29
大阪ガス都市開発との産学共創ワークショップ	29
バンガラデシュ映画『風』字幕制作&上映	30
DKK スポーツクラブ対抗戦3年ぶりの開催	30
芦屋市と包括連携協定を締結	31
愛校週間と春季宗教強調日礼拝	34
2022年度 神戸女学院大学図書館報告	34
2023年度 大学・大学院入学試験結果概要	35
2023年度 在籍学生数	35
2022年度 就職状況報告	36
2023年度 キャリアサポートプログラム (予定)	38
受入留学生報告	39

次

派遣留学報告	41
中期留学 (研修) 報告	42
春期語学研修報告	43
私の研究	45
ゼミ紹介	45
課外活動紹介	46
中高部報告	
第12回ヨーロッパ女子数学オリンピック報告	47
プレゼンテーションコンテストに参加して	47
第5回日本数学 A-lympiad 優良賞受賞して	48
第25回「あけてニコリ!! わくわくお弁当コンテスト」優秀賞受賞報告	48
天文学オリンピック	49
模擬裁判	49
全員で勝った団体戦	50
中高部図書室報告	50
2023年度中学部入学試験結果報告	53
2023年度中高部受入れ留学生	55
J1 デイキャンプ報告	56
春の子ども会報告	56
制限なしの舞台	57
2023年度 中高部体育祭報告	57
課外活動紹介	58
学院日誌	60

下記ページは個人情報保護等のため掲載しておりません。ご了承ください。

7, 16, 26, 32, 51, 54

【お知らせ】

今年度より学報は年1回7月のみの発行となります。次回は2024年7月発行予定です。